

# OPTIMIZE

**MERCURY QUICKTEST PROFESSIONAL™**

VERSION 9.2

インストール・ガイド

**MERCURY™**

BUSINESS TECHNOLOGY OPTIMIZATION



# Mercury QuickTest Professional

## インストール・ガイド

### Version 9.2

発行日 : 2007 年 2 月 26 日

---

**MERCURY™**

## Mercury QuickTest Professional インストール・ガイド, Version 9.2

本マニュアル, 付属するソフトウェアおよびその他の文書の著作権は, 米国著作権法, および各国の著作権法によって保護されており, 付属する使用許諾契約書に基づきその範囲内でのみ使用されるものとします。Mercury Interactive Corporation のソフトウェア, その他の製品およびサービスの機能は次の 1 つまたはそれ以上の特許に記述があります。米国特許番号: 5,511,185; 5,657,438; 5,701,139; 5,870,559; 5,958,008; 5,974,572; 6,137,782; 6,138,157; 6,144,962; 6,205,122; 6,237,006; 6,341,310; 6,360,332; 6,449,739; 6,470,383; 6,477,483; 6,549,944; 6,560,564; 6,564,342; 6,587,969; 6,631,408; 6,631,411; 6,633,912; 6,694,288; 6,738,813; 6,738,933; 6,754,701; 6,792,460 および 6,810,494。オーストラリア特許番号: 763468 および 762554。その他の特許は米国およびその他の国で申請中です。権利はすべて弊社に帰属します。

米国政府に対する限定権利本ソフトウェア関連マニュアルは, 48 C.F.R.2.101 (1995 年 10 月) に定義されている「商品」に該当します。48 C.F.R. 12.212 (1995 年 10 月), 48 C.F.R. 27.401 ~ 27.404, 522.227-14 (1987 年 6 月改正), 48 D.F.R. 227.7201 ~ 227.7204 (1995 年 6 月) および該当する各米政府機関の C.F.R. (「連邦調達規定」) の第 48 章への補遺等の同等の条項に基づき, 米国政府に所属するユーザは, 本文書に関連するコンピュータ・ソフトウェアのライセンス契約に規定されている限定権利を付与され, かかる権利に従って本文書を使用できます。

Mercury, Mercury Interactive, Mercury のロゴ, Mercury Interactive のロゴ, LoadRunner, WinRunner, SiteScope および TestDirector は, Mercury Interactive Corporation の商標であり, 特定の司法管轄内において登録されている場合があります。上記の一覧に含まれていない商標についても, Mercury が当該商標の知的所有権を放棄するものではありません。

その他の企業名, ブランド名, 製品名の商標および登録商標は, 各所有者に帰属します。Mercury は, どの商標がどの企業または組織の所有に属するかを明記する責任を負いません。

Mercury は, 補足情報の入手に役立つよう, 外部の第三者の Web サイトへのリンクを提供します。サイトの内容と利用の可否は予告なしに変更される場合があります。Mercury は, サイトの内容と利用の可否について, いかなる表明も保証もしません。

Mercury Interactive Corporation  
379 North Whisman Road  
Mountain View, CA 94043  
Tel: (650) 603-5200  
Fax: (650) 603-5300  
<http://www.mercury.com>

© 1992 - 2007 Mercury Interactive Corporation, All rights reserved

本書に関するご意見やご要望は [documentation@mercury.com](mailto:documentation@mercury.com) まで電子メールにてお送りください。

---

# 目次

<b>QuickTest Professional インストール・ガイドへようこそ</b> .....	5
本書の利用法 .....	6
対象読者 .....	6
QuickTest Professional オンライン・ドキュメント .....	7
その他のオンライン・リソース .....	9
文書の更新.....	10
表記規則 .....	11
<b>第 1 章：インストールの前に</b> .....	13
システム要件 .....	14
必要な アクセス許可の設定 .....	15
<b>第 2 章：QuickTest Professional のセットアップ</b> .....	17
QuickTest Professional 9.2 でのアドインの使用 .....	18
QuickTest Professional のライセンスの種類ごとの セットアップについて .....	19
QuickTest Professional のインストール .....	22
QuickTest Professional プログラム・フォルダの参照について .....	49
サイレント・インストールの設定.....	52
QuickTest Professional Japanese User Interface Pack の インストール手順 .....	59
<b>第 3 章：QuickTest Professional ライセンスの使用法</b> .....	65
QuickTest のライセンスの種類について.....	66
シート・ライセンス・キーの申請.....	68
シート・ライセンス・キーのインストール .....	69
コンカレント・ライセンスの使用.....	75
ライセンス情報の変更.....	80
LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定 .....	82
コンピュータ・ライセンスの使用 .....	84
QuickTest ライセンスの検証.....	97

<b>第 4 章 : QuickTest Professional の保守とアンインストール</b> .....	101
QuickTest Professional の特定機能のインストールと アンインストール .....	102
QuickTest Professional のインストールの修正 .....	103
QuickTest Professional とインストールされたアドインの アンインストール .....	104

---

# QuickTest Professional インストール・ガイド へようこそ

QuickTest Professional インストール・ガイドへようこそ。本書では、スタンドアロンのコンピュータへの QuickTest Professional のインストールおよびセットアップ方法について説明します。

本章の内容	ページ
本書の利用法	6
対象読者	6
QuickTest Professional オンライン・ドキュメント	7
その他のオンライン・リソース	9
文書の更新	10
表記規則	11

ようこそ

## 本書の利用法

本書は次の章で構成されています。

### 第 1 章 インストールの前に

QuickTest Professional のインストールおよび実行に必要なシステム要件およびアクセス権限を示します。

### 第 2 章 QuickTest Professional のセットアップ

ローカル・コンピュータへの QuickTest のインストール方法、およびサイレント・インストール手順のセットアップと実行方法を説明します。

### 第 3 章 QuickTest Professional ライセンスの使用方法

さまざまなライセンスの種類およびライセンスのインストール方法を説明します。また、コンピュータ・ライセンス・メカニズムの使用方法についても説明します。

### 第 4 章 QuickTest Professional の保守とアンインストール

QuickTest のアンインストール方法、特定の QuickTest 機能のアンインストールおよびインストール方法、既存の QuickTest の修復方法を説明します。

## 対象読者

本書は、QuickTest Professional のインストールおよびセットアップを行う必要のあるユーザを対象としています。

本書の読者は、システム管理についてある程度の知識を持っている必要があります。



## QuickTest Professional オンライン・ドキュメント

QuickTest Professional には、次のオンライン・ドキュメントがあります。

「**最初にお読みください**」では、QuickTest に関する最新ニュースと最新情報を入手できます。[スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional] > [最初にお読みください] を選択してください。

『**QuickTest Professional インストール・ガイド**』では、QuickTest のインストールおよびセット・アップ方法を説明します。[ヘルプ] > [印刷用ドキュメント] > [Mercury QuickTest Professional インストール ガイド] を選択してください。

『**QuickTest Professional チュートリアル**』では QuickTest の基本スキルを学びアプリケーション向けのテストを設計する方法を説明します。[ヘルプ] > [QuickTest Professional チュートリアル] を選択します。

「**製品の機能紹介ムービー**」(英語版)では、選択された QuickTest 機能の使用方法について、概要および手順ごとに説明します。[ヘルプ] > [製品の機能紹介ムービー] を選択します。

「**印刷用ドキュメント**」では、Adobe の PDF (Portable Document Format) で全ドキュメントを表示します。オンライン文書は Adobe Reader を使って読んだり印刷したりできます。Adobe Reader は、Adobe の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp>) からダウンロードできます。[ヘルプ] > [印刷用ドキュメント] を選択します。

『**QuickTest Professional ヘルプ**』には次のドキュメントが含まれています。

- ▶ 『**QuickTest Professional の新情報**』では、最新バージョンの QuickTest でサポートされている環境、新機能および強化された点について説明します。
- ▶ 『**QuickTest User's Guide**』(英語版)では、QuickTest を使用してアプリケーションをテストする方法を説明します。
- ▶ 『**QuickTest for Business Process Testing User's Guide**』(英語版)では、QuickTest を使用して、ビジネス・プロセス・テストで使用する資産の作成および管理を行う方法を手順ごとに説明します。
- ▶ 『**QuickTest Object Model**』(英語版)では、QuickTest テスト・オブジェクトの説明、各オブジェクトに関連したメソッドおよびプロパティの一覧、メソッドおよびプロパティの構文情報と使用例を示します。

- ▶ 『**QuickTest Advanced References**』 (英語版) には、次の QuickTest COM および XML リファレンスに関するマニュアルが含まれています。
  - 『**QuickTest Automation**』 (英語版) では、オートメーション・オブジェクト、メソッドとプロパティの構文情報、詳細な情報、および例を入手できます。また、QuickTest のオートメーション・スクリプトを記述する際の詳しい概要も含まれます。オートメーション・オブジェクト・モデルは、QuickTest のほぼすべての機能を制御することを可能にするオブジェクト、メソッド、プロパティを提供することによって、テスト管理の自動化を支援します。
  - 『**QuickTest Test Results Schema**』 (英語版) では、テスト結果のカスタマイズを可能にする XML スキーマについて説明します。
  - 『**QuickTest Test Object Schema**』 (英語版) では、テスト・オブジェクトのサポートをさまざまな環境に拡張できる XML スキーマについて説明します。
  - 『**QuickTest Object Repository Automation**』 (英語版) では、QuickTest の外部から QuickTest オブジェクト・リポジトリやその内容を操作できるようにする、オブジェクト・リポジトリ・オートメーション・オブジェクト・モデルについて説明します。
- ▶ 『**VBScript Reference**』 (英語版) には、VBScript, Script Runtime, および Windows Script Host を含む Microsoft VBScript のマニュアルが含まれています。

QuickTest Professional ヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ] > [QuickTest Professional ヘルプ]** を選択します。選択した QuickTest ウィンドウおよびダイアログ・ボックスをクリックして F1 キーを押すことで QuickTest Professional ヘルプにアクセスすることもできます。また、QuickTest テスト・オブジェクト、メソッド、またはプロパティの上にカーソルを置いて F1 キーを押すことで、それらの説明、構文、および例を参照できます。

---

**注 :** QuickTest Help には、インストール済みの QuickTest アドインに関連する追加の項目が含まれている場合があります。詳細については、関連するアドインのマニュアルを参照してください。

---

## その他のオンライン・リソース

**Mercury Tours** サンプル Web サイト（英語版）は、本書で説明する多くの例の基礎となります。この Web サイトの URL は <http://newtours.mercury.com> です。**[スタート]** > **[プログラム]** > **[QuickTest Professional]** > **[Sample Applications]** > **[Mercury Tours Web Site]** を選択してください。

**ナレッジ・ベース**（英語版）：普段お使いの Web ブラウザで、Mercury のカスタマー・サポート Web サイトから Knowledge Base ページを直接開きます。**[ヘルプ]** > **[ナレッジ ベース]** を選択します。この Web サイトの URL は、<http://support.mercury.com/cgi-bin/portal/CSO/kbBrowse.jsp> です。

**カスタマー・サポート Web サイト**：普段お使いの Web ブラウザで、Mercury のカスタマー・サポート Web サイトを開きます。このサイトでは、サポート要求を送信できます。また、英語版のサイトでは、ナレッジ・ベースの参照、独自の項目の追加、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの書き込みや検索、パッチや更新された文書のダウンロードなどを行うこともできます。**[ヘルプ]** > **[カスタマ サポート Web サイト]** を選択します。この Web サイトの URL は <http://www.mercury.com/jp/services/support/> です。

**フィードバックの送信**：製品チームに、QuickTest Professional に関してオンラインでフィードバックを行うことができます。**[ヘルプ]** > **[フィードバックの送信]** を選択します。

**Mercury のホームページ**：普段お使いの Web ブラウザで、HP Software Web サイトを開きます。このサイトでは、HP Software 製品に関する最新情報を提供します。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマー・サポートなどの情報も含まれています。**[ヘルプ]** > **[Mercury ホームページ]** を選択します。

**Mercury Best Practices**（英語版）：ワールドクラスの IT 環境を計画、構築、配置および管理するためのガイドラインが含まれています。Mercury では、Process Best Practices, Product Best Practices, People Best Practices の 3 種類のベスト・プラクティスを用意しています。Mercury ソフトウェアのライセンス契約を結んでいる方は、カスタマー・サポート・サイト <http://support.mercury.com> から Mercury Best Practice の閲覧と利用が可能です。

## 文書の更新

Mercury では、製品マニュアルに新しい情報が反映されるよう常に更新を行っています。このマニュアルの最新版はカスタマー・サポート Web サイト (<http://support.mercury.com>) からダウンロードできます (英語版のみ)。

**更新された文書をダウンロードするには、次の手順を実行します。**

- 1 カスタマー・サポート Web サイトにログインしたことがない場合は、ログイン情報を入力して [**Login**] をクリックします。
- 2 [**Documentation**] リンクをクリックします。
- 3 [**Please Select Product**] で [**QuickTest Professional**] を選択します。  
必要な製品がリストに表示されていない場合は、顧客プロフィールに追加する必要があります。 [**My Account**] をクリックしてプロフィールを更新します。
- 4 [**Retrieve**] をクリックします。文書のページが開き、現在のリリースと以前のリリースに関する使用可能な文書がリストされます。文書が最近更新された場合、文書名の隣に「**Updated**」のマークが表示されます。
- 5 マニュアル・リンクをクリックしてマニュアルをダウンロードします。

## 表記規則

本書では以下の表記規則に従います。

<b>[UI 要素]</b> および <b>関数名</b>	アクションを実行するインタフェース要素の名前、ファイル名やパス、および強調表示が必要なその他の項目はこのスタイルで示します。例： <b>[保存]</b> ボタンをクリックします。また、メソッド名または関数名も示します。例： <b>wait_window</b> ステートメントには次のパラメータがあります。
<b>引数</b>	メソッド、プロパティ、または関数の引数および書名はこのスタイルで示します。 例：『 <b>Mercury User's Guide</b> 』を参照してください。
<b>&lt; 置換する値 &gt;</b>	実際の値と置換するファイル・パスや URL アドレスの一部は大括弧で囲みます。 例： <b>&lt; MyProduct インストール・フォルダ &gt; %bin</b>
<b>Example</b>	使用例やユーザがそのまま入力しなければならない文字列は、Arial フォントで示します。 例：編集ボックスに「Hello」と入力します。
<b>CTRL+C</b>	キーボードのキーはこの形式で示します。 例：ENTER キーを押します。
<b>[ ]</b>	半角の大括弧は、省略可能な引数を囲みます。
<b>{ }</b>	引数に割り当てる値の候補は、中括弧で囲んで示します。値をいずれか1つ割り当てる必要があります。
<b>...</b>	構文内の省略記号は、同じ形式で項目をさらに組み入れることができることを意味します。プログラム例での3つの点は、プログラム行が意図的に削除されていることを示します。
<b> </b>	2つの値のうちの1つを選択しなければならない場合、これらの値を垂直バーで区切ります。

ようこそ

# 第1章

---

## インストールの前に

機能テストと回帰テストを自動化する高度なキーワード駆動テスト・ソリューション、Mercury QuickTest Professional へようこそ。QuickTest Professional は、Mercury Quality Center の一部です。本書では、QuickTest Professional をスタンドアロン・コンピュータへインストールするために必要なことをすべて説明します。

QuickTest Professional をインストールする前に、システム要件を確認してください。

本章の内容	ページ
システム要件	14
必要な アクセス許可の設定	15

## システム要件

QuickTest Professional を正常にインストールして実行するためには、次のシステム要件を満たす必要があります。

<b>コンピュータ / プロセッサ</b>	Pentium III 以降（Pentium IV 以降を推奨）のマイクロプロセッサ搭載の IBM-PC 互換機。
<b>オペレーティング・システム</b>	Windows 2000—Service Pack 4, Update Rollup 1 for Windows 2000 Service Pack 4, Windows XP 32-Bit Edition—Service Pack 2, Windows XP 64-Bit Edition—Service Pack 1, Windows Server 2003 32-Bit Edition—Service Pack 1, Windows Server 2003 R232-Bit x86, Windows 2003 64-Bit Edition または Windows Vista 32-Bit Edition。
<b>メモリ</b>	512 MB 以上の RAM。
<b>色の設定</b>	High Color（16 ビット）以上。
<b>グラフィック・カード</b>	4 MB（8 MB 以上推奨）のビデオ・メモリ
<b>ハードディスクの空き容量</b>	<p>アプリケーション・ファイルおよびフォルダ用に 480 MB（630 MB を推奨）。システム・ディスク（オペレーティング・システムがインストールされているディスク）用にさらに 120 MB。</p> <p>空き容量の要件には、QuickTest をインストールする前に必要な、前提条件のインストールのための空き容量は含まれていません。</p> <p>QuickTest Professional のインストール後、オペレーティング・システムと QuickTest Professional を正常に実行するためには、システム・ディスクに少なくとも 150 MB の空き領域があることを推奨します。</p>
<b>ブラウザ</b>	Microsoft Internet Explorer 6.0 Service Pack 1 または Microsoft Internet Explorer 7.0。

---

注：サポートされているブラウザ、環境、プログラム、および仮想化技術のリストについては、「**QuickTest Professional 最初にお読みください**」を参照してください。

---



## 必要な アクセス許可の設定

QuickTest Professional のインストールと実行には、下記のアクセス許可の設定が必要です。

### QuickTest Professional のインストールに必要な権限と許可

QuickTest をインストールするコンピュータの管理者権限が必要です。コンピュータの再起動後のインストール処理も同様です。QuickTest Professional のインストール実行中は、他のインストールを実行できません。

### QuickTest Professional の実行に必要な権限と許可

次のファイル・システム権限が必要です。

- ▶ QuickTest のインストール先フォルダの下にあるすべてのファイルとフォルダの読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ Temp フォルダの読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ Windows フォルダおよび System フォルダの読み取り許可。

次のレジストリ・キー権限が必要です。

- ▶ **HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Mercury Interactive** 以下のすべてのキーの読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ **HKEY\_LOCAL\_MACHINE** と **HKEY\_CLASSES\_ROOT** のすべてのキーに対する読み取りおよび値照会の許可。

### Quality Center の使用に必要な許可

QuickTest と Quality Center を使用するには、次の許可が必要です。

- ▶ Quality Center キャッシュ・フォルダの読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ Quality Center 用 QuickTest アドインのインストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込みの許可。



# 第 2 章

---

## QuickTest Professional のセットアップ

QuickTest をインストールするときには、実行するインストール・タイプ（完全かカスタム）、インストールするライセンスのタイプ（評価版、シート、コンカレント）を知っておく必要があります。サイレント・インストール（バックグラウンドでのインストール）も行えます。

本章の内容	ページ
QuickTest Professional 9.2 でのアドインの使用	18
QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて	19
QuickTest Professional のインストール	22
QuickTest Professional プログラム・フォルダの参照について	49
サイレント・インストールの設定	52

## QuickTest Professional 9.2 でのアドインの使用

QuickTest Professional ライセンスにより、組み込みアドインと外部アドインを含むすべての QuickTest 機能が使用可能になります。

QuickTest Professional と共に、リリースされているすべての QuickTest アドインの最新バージョンを使用できます。現在のバージョンの QuickTest Professional と共に使用する前に、Siebel アドイン 8.0 および端末エミュレータ・アドイン 8.0 のすべてに、関連するアドイン・アップグレード・パッチをインストールする必要があります。

**< QuickTest Professional > ¥AddinsUpgrade** フォルダにある関連パッチ実行可能ファイルを実行してアドイン・アップグレード・パッチをインストールできます。

---

**注：**適切なアドイン・アップグレード・パッチをインストールしない場合、これらのアドインはロードできず、[アドインマネージャ] ダイアログ・ボックス内で **[非互換バージョン]** とラベルが付けられます。

---

## QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて

QuickTest Professional のインストール，およびライセンスを有効化する基本的な手順は，ライセンスの種類（**評価版**，**シート**，および**コンカレント**）によって異なります。本節では，それぞれの種類のライセンスに必要なセットアップ手順の概要と，各手順に対する詳細な情報を示します。

---

**注：** リモート接続では，ターミナル・サーバ上に評価版またはシート・ライセンスを使用する QuickTest をインストールすることはできません。この場合，コンカレント・ライセンスをインストールするか，評価版またはシート・ライセンスをターミナル・サーバ・コンピュータに直接（リモート接続を使用せずに）インストールします。

---

### 評価版ライセンスによる QuickTest Professional のセットアップ

本項では，14 日間有効な評価版ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ手順の概要を示します（後でシート・ライセンスをインストールする場合は，20 ページ「シート・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ」の手順 2 ～ 4 を実行してください）。

---

**注：**

- ▶ コンカレント・ライセンスを使用する WinRunner または QuickTest がインストールされたコンピュータでは，評価版のライセンスを使うことはできません。
  - ▶ QuickTest のインストール中に [シート] または [コンカレント] を選択した場合，インストール後に評価版ライセンスが無効になり使用できなくなります。
-

**評価版ライセンスを使って QuickTest Professional をセットアップするには、次の手順を実行します。**

QuickTest Professional セットアップ・プログラムを実行します。[ライセンスの種類] 画面で **[評価版]** を選択します。詳細については、28 ページの「QuickTest Professional のインストール」の手順 6 を参照してください。

### **シート・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ**

本項では、シート・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ手順の概要を示します。シート・ライセンスは、インストールしたコンピュータにのみ有効な無期限のライセンスです。

**シート・ライセンスを使って QuickTest Professional をセットアップするには、次の手順を実行します。**

- 1** QuickTest Professional セットアップ・プログラムを実行します。[ライセンスの種類] 画面で **[シート]** を選択します。詳細については、28 ページの「QuickTest Professional のインストール」の手順 6 を参照してください。
- 2** QuickTest Professional を実行します。表示される警告メッセージの **[インストール]** をクリックし、ライセンス・インストール・ウィザードの最初の部分を実行して、コンピュータのロッキング・コードを生成します。詳細については、68 ページの「シート・ライセンス・キーの申請」の手順 1 を参照してください。
- 3** MIJ ライセンス・センターにロッキング・コードを送信し、ライセンス・コードを申請します。詳細については、69 ページの「シート・ライセンス・キーの申請」の手順 2 を参照してください。
- 4** Mercury からライセンス・コードを取得したら、ライセンス・インストール・ウィザードを実行し、ライセンス・コードを入力してライセンスを有効化します。詳細については、69 ページ「シート・ライセンス・キーのインストール」を参照してください。

## コンカレント・ライセンスによる QuickTest Professional のセットアップ

本項では、コンカレント・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ手順の概要を示します。コンカレント・ライセンスは、Mercury Functional Testing Concurrent License Server を持っている場合にのみ使用可能なセッションごとのライセンスです。サーバにアクセスできれば、コンカレント・ライセンスを無料で使用できます。

コンカレント・ライセンスを使って QuickTest Professional をセットアップするには、次の手順を実行します。

- 1 Mercury Functional Testing Concurrent License Server をネットワーク・コンピュータにインストールして、ライセンスを有効にします。詳細については、『**Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide**』（英語版）を参照してください。このガイド（**MerLicSvr.pdf**）は、Mercury Functional Testing Concurrent License Server がインストールされているコンピュータにインストールされます。
- 2 各クライアント・コンピュータで QuickTest Professional セットアップ・プログラムを実行します。[ライセンスの種類] 画面で **[コンカレント ライセンス]** を選択します。詳細については、28 ページの「QuickTest Professional のインストール」の手順 6 を参照してください。
- 3 QuickTest Professional の使用を開始します。QuickTest Professional が開くと、指定されたライセンス・サーバを自動的に検索し、これに接続します。

---

**注：**コンピュータがライセンス・サーバを見つけられず、接続できない場合は、LSHOST または LSFORCEHOST 変数の設定が必要になることがあります。詳細については、82 ページ「LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定」を参照してください。

---

## QuickTest Professional のインストール

QuickTest Professional の CD-ROM には、インストールのセットアップ・プログラムが含まれています。

QuickTest Professional をインストールするには、管理者権限でログインする必要があります。さらに、ネットワーク・ドライブではなく、ローカル・ドライブに QuickTest Professional をインストールする必要があります。

**QuickTest Professional をインストールするには、次の手順を実行します。**

- 1 QuickTest Professional のインスタンスをすべて閉じます。その他のアプリケーションもすべて閉じることを推奨します。
- 2 CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。お使いのコンピュータの CD-ROM ドライブからインストールする場合は、[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、CD-ROM のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[セットアップ] ウィンドウが開きます。





---

**注：** ネットワーク・ドライブではなく、ローカル・ドライブに QuickTest Professional をインストールしていることを確認してください。

---

- ▶ 製品情報の Web サイト (<http://www.mercury.com/jp/products/quality-center/functional-testing/quicktest-professional/>) を開くには **「製品情報」** をクリックします。
- ▶ Readme ファイルを表示する場合は、**「最初にお読みください」** をクリックします。
- ▶ コンピュータにインストールされている Quality Center (旧 TestDirector) クライアントが、Quality Center に保存されている QuickTest のテストを使用できるようにするには、**「Quality Center アドイン」** をクリックします。

---

**注：** Quality Center アドインは **「Quality Center への接続」** ダイアログ・ボックスで QuickTest を Quality Center に接続すると自動的にインストールされます。あるいは、前述のように **「Quality Center アドイン」** を選択して手動でインストールすることもできます。

---

このアドインをインストールすると、Quality Center にある QuickTest Professional のテストが使用できるようになります。また、Quality Center でテストを実行し、テスト結果を表示することもできるようになります。

Quality Center の QuickTest Professional アドインの詳細については、[QuickTest Professional アドイン] 画面 (Quality Center のメイン画面からアクセス可能) を参照してください。

---

**注：**QuickTest Professional 9.2 は、Quality Center 8.2 Service Pack 1 および Quality Center 9.0 以降との統合をサポートしています。ビジネス・プロセス・テストでは、QuickTest Professional 9.2 は Quality Center 9.0 以降との統合のみサポートします。現在サポートされているすべてのバージョンの Quality Center に Quality Center アドインをインストールできます。サポートされているバージョンの詳細については、「**QuickTest Professional 9.2 最初にお読みください**」を参照してください。

---

▶ 以前のバージョンの QuickTest の **QuickTest Plus ツールキット** で使用できたユーティリティ、機能、および情報は、メインの QuickTest Professional アプリケーションに組み込まれています。次のものが含まれています。

- コードおよび SDK サンプル。QuickTest カスタム・インストール時に、[機能の選択] 画面で [**サンプル**] を選択するとインストールできます。詳細については、手順 11 および 12 を参照してください。
- オブジェクト・リポジトリ結合機能。[QuickTest オブジェクトリポジトリ結合ツール] から使用できます。
- 外部アクション呼び出しの変更ユーティリティ。QuickTest の [欠落リソース] 表示枠内で処理されます。
- ブラウザ・コントロール登録ユーティリティ。
- ライセンス検証ユーティリティ。

これらのユーティリティと機能の詳細、およびよくある質問の回答については、『**Mercury QuickTest Professional User's Guide**』（英語版）および『**QuickTest Professional Knowledge Base**』（英語版）（<http://support.mercury.com/cgi-bin/portal/CSO/kbBrowse.jsp>）を参照してください。

- ▶ Mercury の Web サイトにあるお問い合わせ情報のページ (<http://www.mercury.com/jp/services/support/contact/>) を開くには、**[Mercury へのお問い合わせ]** をクリックします。
- ▶ Mercury のカスタマー・サポートの Web サイト (<http://www.mercury.com/jp/services/support/>) を開くには、**[サポート]** をクリックします。
- ▶ QuickTest Professional の CD-ROM の内容を確認するには、**[CD の参照]** をクリックします。
- ▶ **[QuickTest Professional セットアップ]** ウィンドウを終了するには、**[終了]** をクリックします。

**3 [QuickTest Professional セットアップ]** をクリックして、QuickTest Professional セットアップ・プログラムを開始します。

---

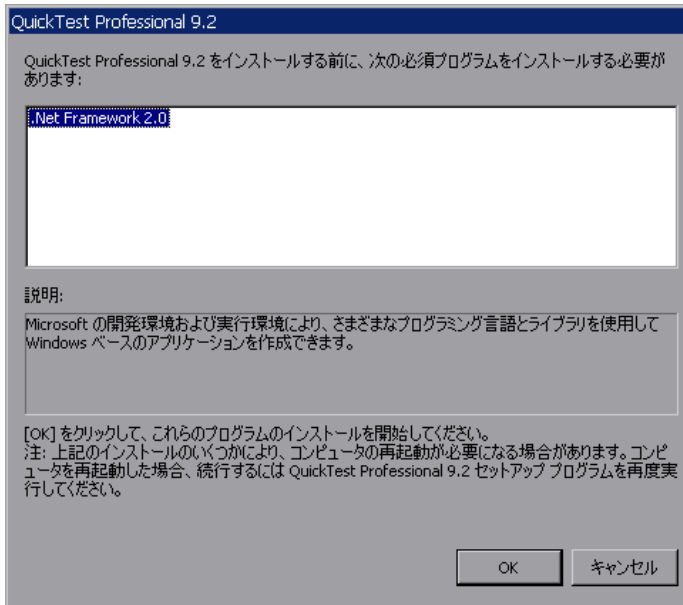
注：

QuickTest Professional 9.0. または 9.1 からアップグレードする場合は、セットアップ・プログラムはこれを検出し、QuickTest Professional 9.2 にアップグレードするか、現在のバージョンをアンインストールしてから QuickTest Professional 9.2 をインストールするか尋ねるメッセージを表示します。アップグレードする場合は **[はい]** をクリックします。既存のバージョンをアンインストールしてから新しいバージョンをインストールする場合は **[いいえ]** をクリックします。

QuickTest Professional 8.2 以前からアップグレードする場合は、セットアップ・プログラムはこれを検出し、現在のバージョンをアンインストールしてから QuickTest Professional 9.2 をインストールするか尋ねるメッセージを表示します。**[はい]** をクリックして、現在のバージョンの QuickTest Professional をアンインストールします。アンインストールの終了後、コンピュータを再起動する必要があります。再起動後、新しいバージョンのインストールが開始されます。

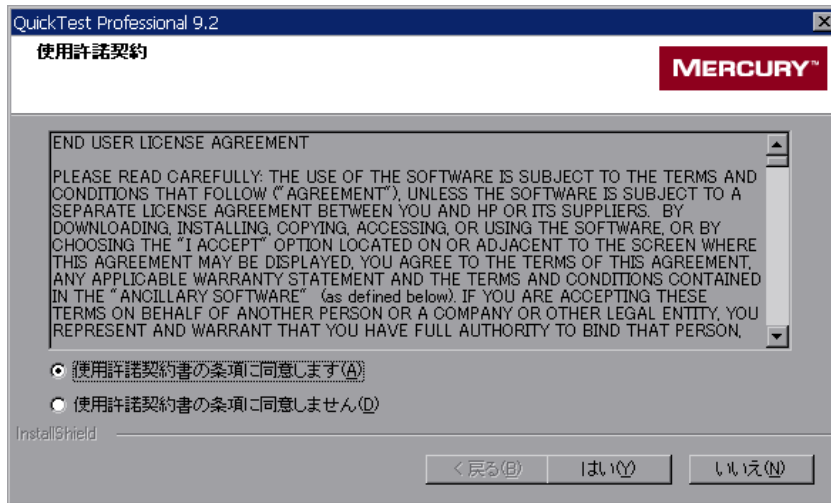
---

- 4 QuickTest では、QuickTest をインストールする前に .NET Framework 2.0 などの特定のソフトウェアがインストールされている必要があります。セットアップによって、前提条件のソフトウェアがコンピュータにインストールされていないことが検出された場合は、次の画面が開きます。[OK] をクリックし、画面の指示に従ってリストされたソフトウェアをインストールした後、QuickTest のインストールを続けます。[キャンセル] をクリックした場合、前提条件のソフトウェアがなければ QuickTest をインストールできないため、セットアップは終了します。



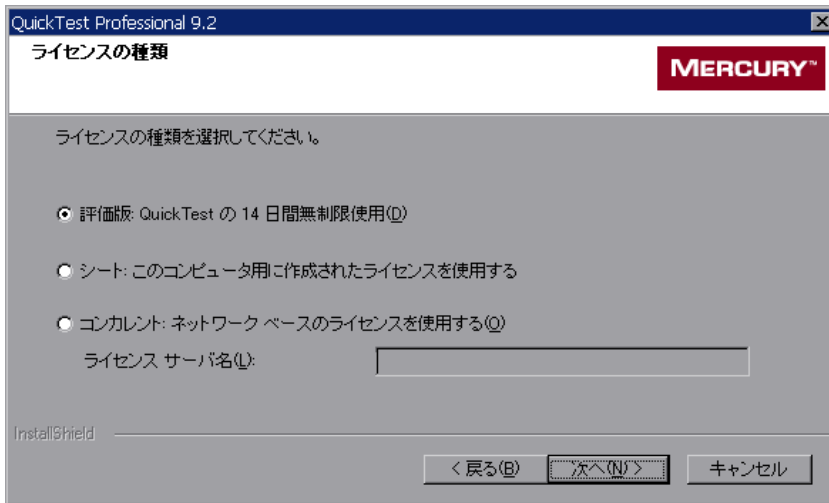
コンピュータの再起動を要求された場合は、前提条件のソフトウェアをインストールした後に再起動してください。コンピュータの再起動後にインストールを続行するには、セットアップ・プログラムを再実行してください。

- 5 セットアップ・プログラムが起動し、[使用許諾契約] 画面が開きます。契約内容を読みます。



QuickTest Professional をインストールするには、**[使用許諾契約書の条項に同意します]** を選択し、**[はい]** をクリックしてライセンス契約の条項に同意する必要があります。**[いいえ]** をクリックすると、セットアップ・プログラムが閉じます。

- 6 ライセンスがまだインストールされていない場合は、[QuickTest Professional ライセンスの種類] 画面が開きます。



ライセンスの種類を選択します（さまざまなライセンスの種類のセットアップに必要なプロセスの詳細については、19 ページ「QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて」を参照してください。ライセンスの使用の詳細については、65 ページ「QuickTest Professional ライセンスの使用方法」を参照してください）。

▶ **[評価版 : QuickTest の 14 日間無制限使用]**

インストールしたコンピュータにのみ有効な 14 日間の評価版ライセンス。14 日を超えて QuickTest Professional を使用するには、Mercury に連絡して正式ライセンスを取得してください。

▶ **[シート : このコンピュータ用に作成されたライセンスを使用する]**

インストールしたコンピュータにのみ有効な無期限のライセンス。このオプションには 14 日の評価期間も含まれています。無期限ライセンス用のシート・ライセンス・キーは、この期間内に MIJ ライセンス・センターで申請してください。シート・ライセンス・キーを受け取ってから有効化すると、無期限で QuickTest Professional を使用できます。詳細については、68 ページ「シート・ライセンス・キーの申請」を参照してください。

**▶ [コンカレント：ネットワーク ベースのライセンスを使用する]**

ネットワーク上のライセンス・サーバによって QuickTest Professional のコンカレント・ユーザの数が規制されます。コンカレント・ライセンスを使用するには、ローカル・ネットワークにコンカレント・ライセンス・サーバがインストールされていて、ライセンス・サーバに現在使用されていないライセンスが少なくとも1つ必要です。

接続先のコンカレント・ライセンス・サーバの名前がわかっている場合は、その名前をテキスト・ボックスに指定できます。このオプションを選択してコンカレント・ライセンス・サーバを指定しなければ、QuickTest を開いたときに QuickTest がサーバの検索を試みます。

詳細については、『**Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide**』（英語版）を参照してください。

---

**注：**

- ▶ QuickTest Professional ライセンスが既にインストールされている場合は、[ライセンスの種類] 画面は開きません。ライセンスの種類の変更、または既存のライセンス・コードの変更の詳細については、80 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。
- ▶ コンカレント・ライセンスを使用する WinRunner または QuickTest がインストールされたコンピュータでは、評価版のライセンスを使うことはできません。
- ▶ この段階で「シート」または「コンカレント」を選択すると、インストールの完了後は、**評価版**ライセンスが無効になり使用できなくなります。
- ▶ リモート接続では、ターミナル・サーバ上に評価版またはシート・ライセンスを使用する QuickTest をインストールすることはできません。この場合、コンカレント・ライセンスをインストールするか、評価版またはシート・ライセンスをターミナル・サーバ・コンピュータに直接（リモート接続を使用せずに）インストールします。

---

[**次へ**] をクリックして続行します。「**評価版**」ライセンスを選択した場合は、手順 8 に進みます。「**シート**」または「**コンカレント**」ライセンスを選択した場合は、手順 7 に進みます。

- 7 [登録情報] ダイアログ・ボックスで、ユーザ名、会社名、メンテナンス番号を入力します。メンテナンス番号には、「QuickTest Professional ライセンス証書」に記載されている「シリアル番号」を入力してください。

QuickTest Professional 9.2

登録情報

MERCURY™

ユーザ名、会社名、メンテナンス番号を入力してください。メンテナンス番号は QuickTest Professional ライセンス証書に明記されているシリアル番号を入力してください。

ユーザ名(U):  
Mercury

会社名(C):  
Mercury Interactive

メンテナンス番号(M):

InstallShield

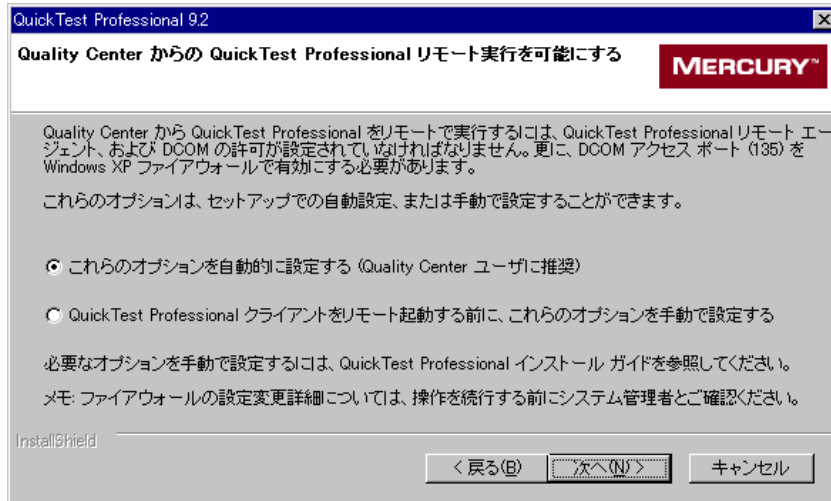
< 戻る(B)    次へ(F) >    キャンセル

[次へ] をクリックして続行します。入力した登録情報のサマリが開きます。

[はい] をクリックして登録情報を確定します。QuickTest Professional のバージョンをアップグレードする場合は、手順 11 に進みます。そうでない場合は手順 8 に進みます。



- 8 Windows XP Service Pack 2 以降, Windows 2003 Server, または Windows Vista を実行しているコンピュータに QuickTest Professional をインストールする場合は, [Quality Center からの QuickTest Professional リモート実行を可能にする] 画面が開きます。



QuickTest テストを Quality Center からリモート実行する場合, 最初に DCOM アクセス許可とセキュリティの設定を変更し, QuickTest のコンピュータのファイアウォール・ポートを開く必要があります。これらの変更を自動と手動のどちらで行うかは選択することができます。QuickTest テストを Quality Center からリモート実行しない場合, これらの変更は必要ありません。これらの変更は, QuickTest を Windows XP Service Pack 2 以降, Windows 2003 Server, あるいは Windows Vista 上で実行している場合にのみ必要です。

---

**注 :** Windows XP Service Pack 2 以降, Windows 2003 Server, あるいは Windows Vista における DCOM のセキュリティの変更に関する質問は, マイクロソフトのサポートにお問い合わせください。

---

これらのオプションを自動的に設定する場合, QuickTest によって変更される情報の詳細については, 42 ページ「DCOM のアクセス許可変更による QuickTest のリモート実行の有効化」で説明されている手順を参照してください。

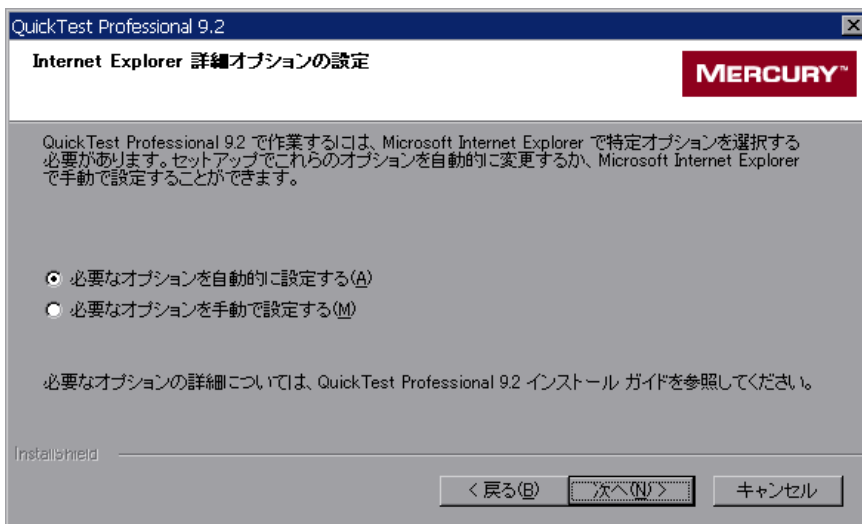
QuickTest のインストール中にリモート実行オプションを自動的に設定しない場合は、Quality Center から QuickTest のテストをリモートで実行する前に、次の作業が可能です。

- ▶ 必要な変更を手動で行う。手動での変更の詳細については、42 ページ「DCOM のアクセス許可変更による QuickTest のリモート実行の有効化」を参照してください。
- ▶ 必要な変更を自動で行う。リモート・エージェント（< **QuickTest Professional インストール** > %bin%\AQTRmtAgent.exe）を後で実行して自動的に変更できます。

[次へ] をクリックして続行します。

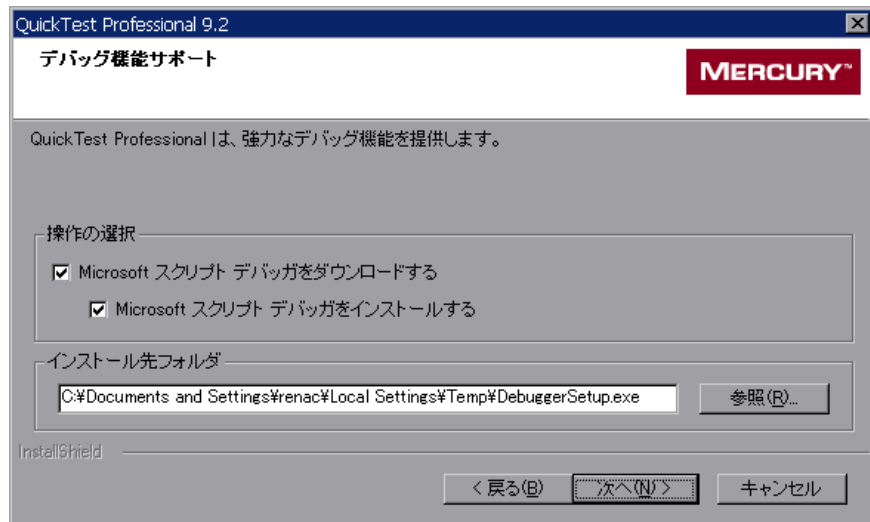
- 9 QuickTest Professional では、テストの実行中に Microsoft Script Debugger が使用されます。そのため、Microsoft Internet Explorer で [スクリプト デバッグを使用しない] および [サードパーティ製のブラウザ拡張を有効にする] オプションが選択されていなければなりません。これらのオプションが選択されていない場合は、[Internet Explorer 詳細オプションの設定] 画面が開きます。

[Internet Explorer 詳細オプションの設定] 画面で、これらのオプションを自動的に設定するセットアップ・プログラムを設定するか、手動で設定するかを選択します。



セットアップ中にこれらのオプションを設定しない場合は、QuickTest Professional を実行する前に Microsoft Internet Explorer のオプションを手動で設定する必要があります。[次へ] をクリックして続行します。

- 10 コンピュータに Microsoft Script Debugger がインストールされていないならば、[デバッグ機能サポート] 画面が開きます。QuickTest Professional のデバッグ機能を利用するために、Microsoft Script Debugger をダウンロードし、インストール（任意）するかどうかを指定できます。Microsoft Script Debugger をインストールしない場合は、QuickTest Professional を使用してスクリプトをデバッグできません。



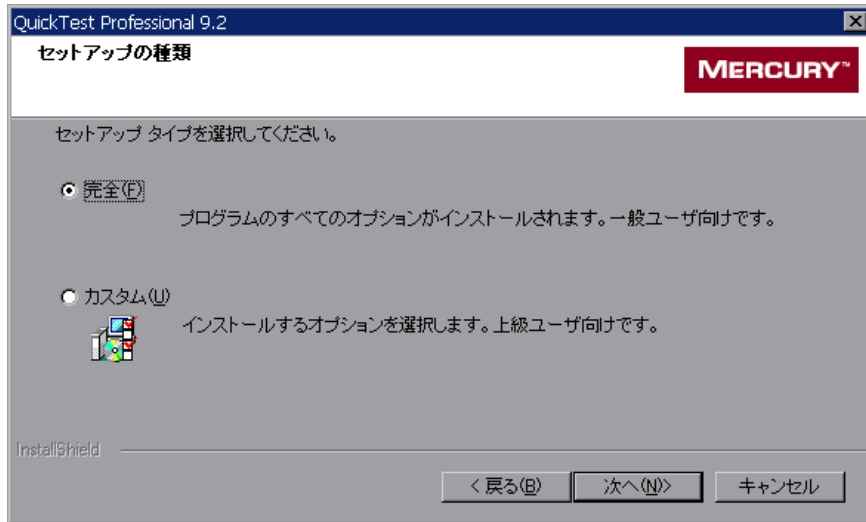
必要に応じて、次の該当するチェック・ボックスを選択します。

- ▶ [Microsoft スクリプト デバッガをダウンロードする] : 指定したフォルダに Microsoft Script Debugger をダウンロードします。
- ▶ [Microsoft スクリプト デバッガをインストールする] : Microsoft Script Debugger をインストールします。

ファイルをダウンロードして保存する場所として、表示されているパスと異なる場所を選択するには、[参照] をクリックしてフォルダを選択し、[OK] をクリックします。

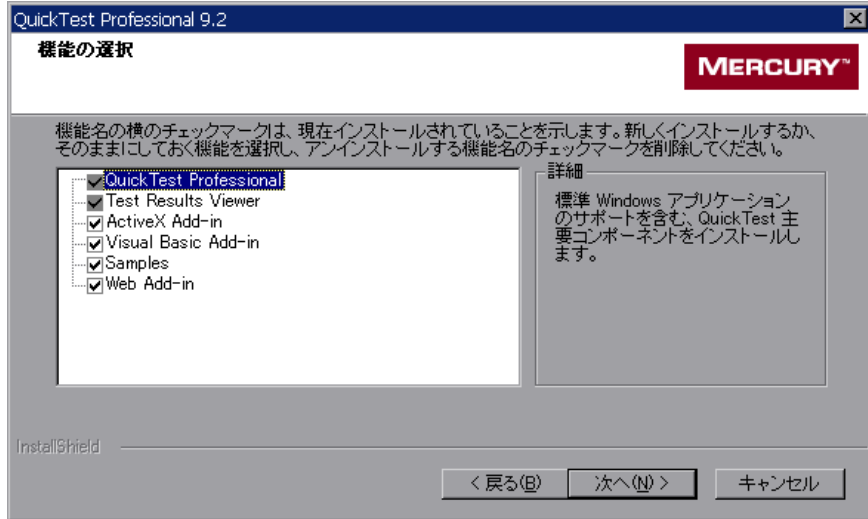
[次へ] をクリックして続行します。

- 11 [セットアップの種類] 画面で **[完全]** または **[カスタム]** インストールを選択します。**[カスタム]** インストールでは、インストールする QuickTest Professional 機能を選択できます（上級ユーザ向けです）。



**[次へ]** をクリックして続行します。**[完全]** インストールを選択し、QuickTest Professional のバージョンをアップグレードしている場合は、手順 14 に進みます。**[完全]** インストールを選択し、QuickTest Professional を初めてインストールしている場合は、手順 13 に進みます。**[カスタム]** インストールを選択した場合は、手順 12 に進みます。

12 [機能の選択] 画面で、インストールするコンポーネントを選択します。



QuickTest Professional をインストールせずにテスト結果を確認したい場合は、**Test Results Viewer** のみをインストールします。これは QuickTest Professional テストの結果を確認できるスタンドアロン・アプリケーションです。

---

**注：**

QuickTest Professional をインストールする場合は、**Test Results Viewer** オプションも選択しなければなりません。

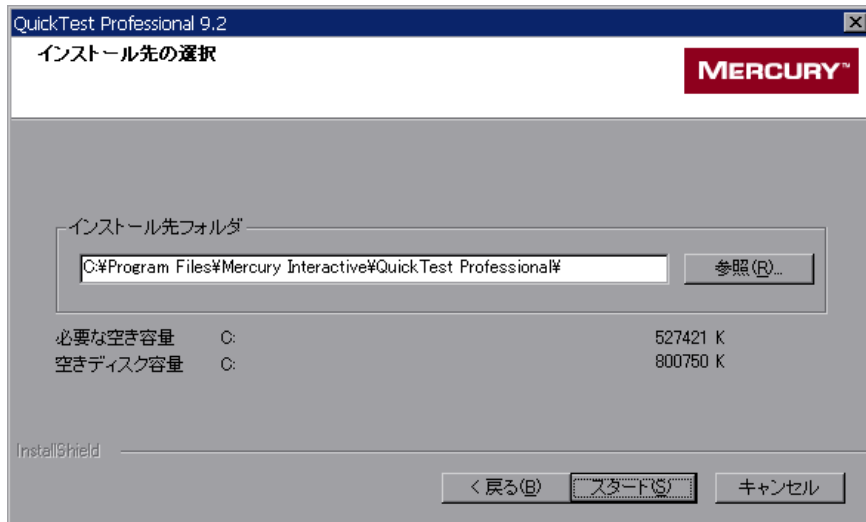
Test Results Viewer だけをインストールするには、まずすべてのアドインとサンプルのオプションをクリアしてから QuickTest Professional オプションをクリアします。

初めて QuickTest Professional 9.2 をインストールする場合には、**[QuickTest Professional]** オプションを選択しなければなりません。

---

[次へ] をクリックして続行します。QuickTest Professional のバージョンをアップグレードする場合は、手順 14 に進みます。そうでない場合は手順 13 に進みます。

- 13 [インストール先の選択] 画面で、QuickTest Professional をインストールする場所を選択します。

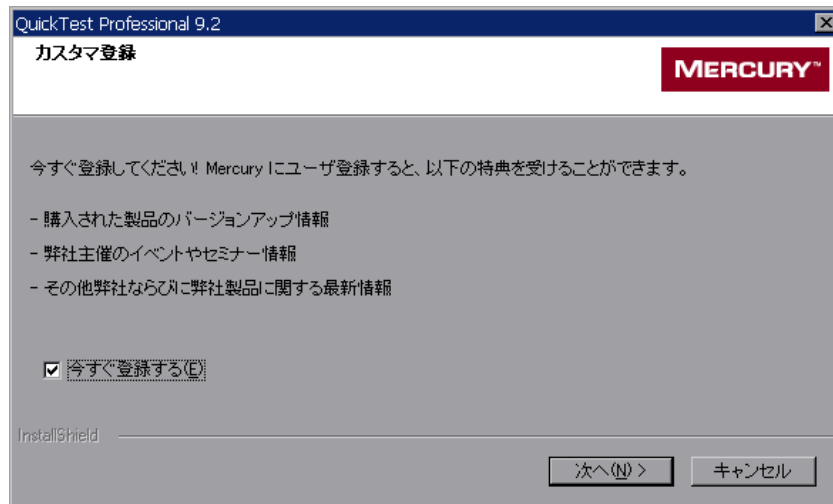


表示されているパスと異なる場所を選択するには、[参照] をクリックしてフォルダを選択し、続いて [OK] をクリックします。UNC パスではない、割り当て済みのドライブ内のフォルダを指定します。インストール先フォルダが存在しない場合は、フォルダを作成するかどうか尋ねられます。

QuickTest Professional をインストールするドライブにハード・ディスクの空き領域が十分にあることを確認します。詳細については、14 ページ「システム要件」を参照してください。

[スタート] をクリックして先に進みます。

インストール・プロセスが始まります。セットアップ・プロセスが完了すると、[カスタマ登録]画面が開きます。この画面からオンラインで QuickTest Professional のユーザ登録ができます。



お使いになる QuickTest Professional のコピーを登録してください。これにより、該当するすべての権利と権限を有するライセンス・ユーザになります。

登録すると、次のような特典を受けることができます。

- ▶ Mercury のカスタマー・サポート Web サイトへのアクセス
- ▶ 新製品のリリースやアップグレードのお知らせ
- ▶ Mercury の世界規模のテスト担当者コミュニティへの参加資格

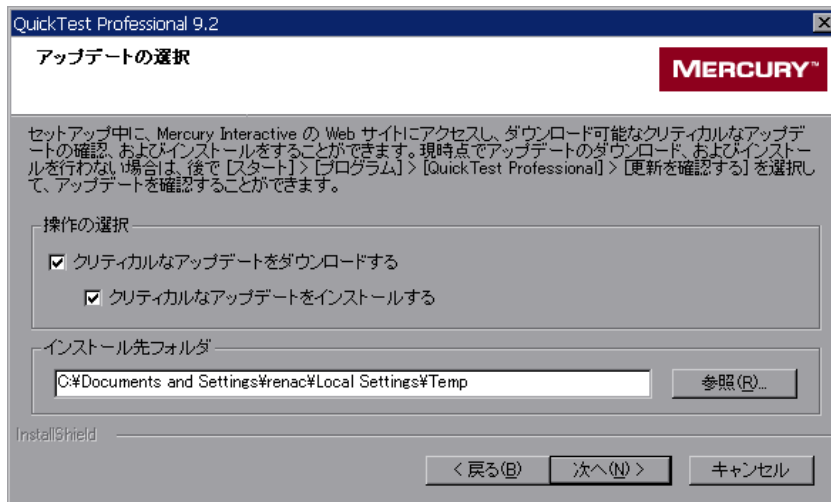
住所変更の際には、引き続き製品情報と更新を入手できるように、Mercury またはお近くの代理店にお知らせください。

すぐに登録するには、[今すぐ登録する] チェック・ボックスが選択されていることを確認します。[次へ] をクリックします。ブラウザが起動し、Mercury のカスタマー・サポート・サイト (<http://www.mercury.com/jp/services/support/>) が表示されます。カスタマー・サポート・サイトの指示に従います。

後で登録する場合、または登録済みのユーザの場合は、[今すぐ登録する] チェック・ボックスをクリアし、[次へ] をクリックして、QuickTest Professional のインストールを終了します。

- 14 この処理は、インストール中の QuickTest Professional のバージョン用にインストールすべき重要なアップデートがないかを確認します。重要なアップデートがない場合には、手順 16 に従ってインストールが継続されます。

インストールすべき重要なアップデートがある場合には、[アップデートの選択] 画面が開きます。



次のオプションのいずれかを選択します。

- ▶ **[クリティカルなアップデートをダウンロードする]** : 指定したインストール先フォルダに重要な更新をダウンロードします。
- ▶ **[クリティカルなアップデートをインストールする]** : 重要な更新をインストールします。

---

**注** : すぐに重要なアップデートのダウンロードとインストールを行わない場合は、後で [スタート] メニューから [QuickTest Professional] プログラム・グループを開き、[更新を確認する] を選択して、アップデートを確認することができます。

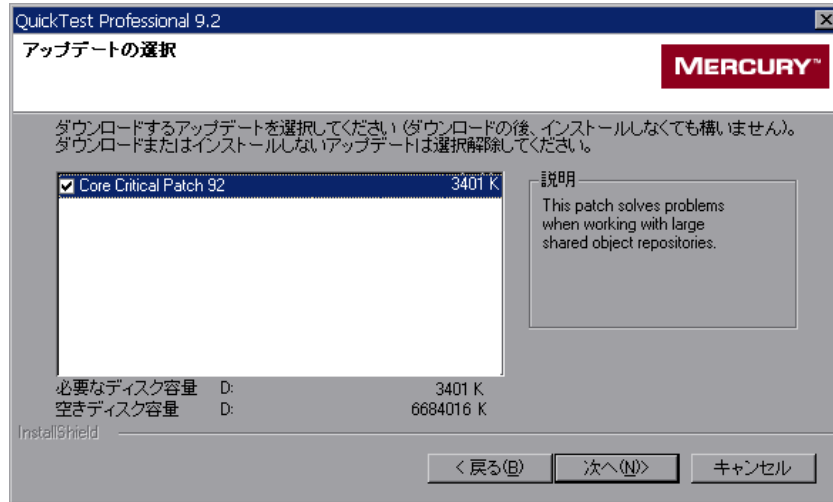
---

ファイルをダウンロードして保存する場所として、表示されているパスと異なる場所を選択するには、[参照] をクリックしてフォルダを選択し、[OK] をクリックします。



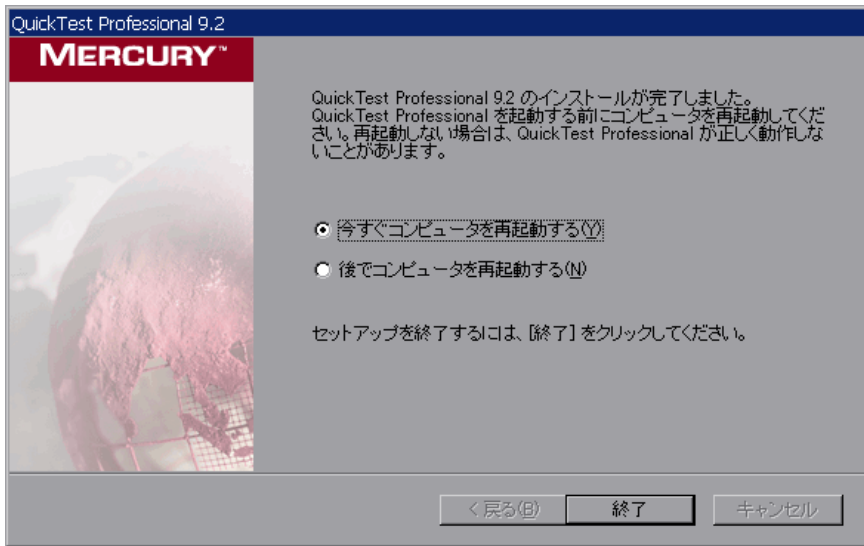
[次へ] をクリックして続行します。重要な更新のダウンロードとインストールを選択した場合は、次の画面が開きます。そうでない場合は手順 16 に進みます。

- 15 入手可能なすべての重要な更新のリストが開きます。ダウンロードしてインストール（任意）する更新を選択します。ダウンロードまたはインストールしない更新はクリアします。



[次へ] をクリックして先に進みます。手順 14 で選択したオプションに従って、重要な更新をダウンロードします。更新をダウンロードしインストールする場合、更新はコンピュータを再起動した後、インストールの最後の段階でインストールされます。

- 16 コンピュータを再起動するかどうかを尋ねる InstallShield ウィザードの完了画面が現れます。



---

**注：**できるだけ早くコンピュータを再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると、QuickTest に予期しない動きが生じる可能性があります。

---

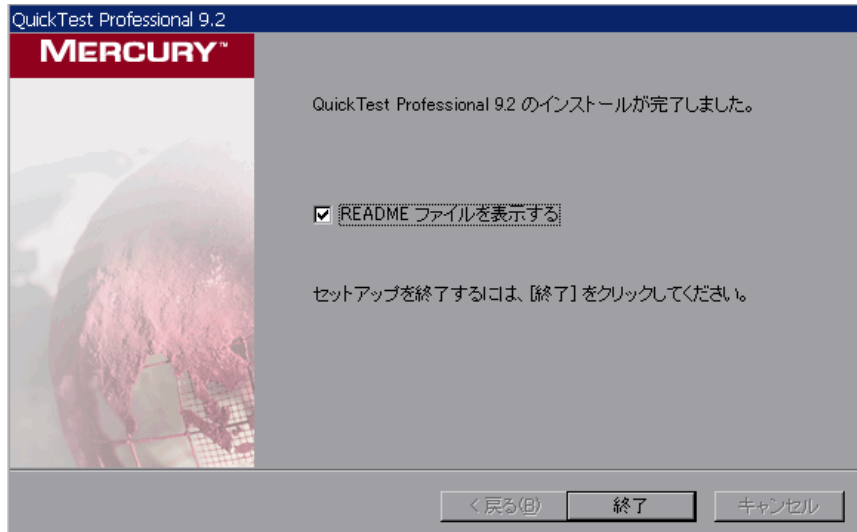
[終了] をクリックしてセットアップ・プロセスを完了します。

---

**注：**重要な更新をダウンロードしインストールする場合は、コンピュータを再起動した後にインストールされます。重要な更新のインストールには時間がかかります。

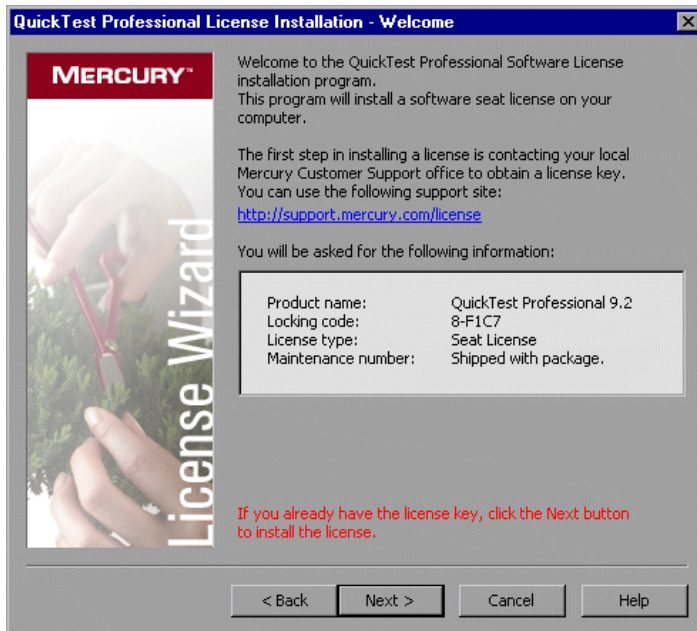
---

- 17 コンピュータの再起動後、セットアップ・プロセスが完了し、QuickTest Professional Readme ファイルを表示するかどうかを問われます。Readme ファイルを表示するには、チェック・ボックスを選択し、**[終了]** をクリックします。



**[README ファイルを表示する]** チェック・ボックスを選択すると、**[終了]** をクリックした後に「QuickTest Professional 最初にお読みください」ファイルが開きます。この「最初にお読みください」ファイルには、最新の技術情報およびトラブルシューティングに関する情報が記載されています。後で「最初にお読みください」ファイルを開くには、**[スタート]** メニューから **[QuickTest Professional]** プログラム・グループを開き、**[Readme]** を選択します。

- 18 [終了] をクリックすると、評価版またはコンカレント・ライセンスを選択していれば、QuickTest Professional を開いて使用を開始できます。シート・ライセンスを使用して QuickTest をインストールした場合は、[QuickTest Professional License Installation - Welcome] 画面が開きます。



シート・ライセンス・キー・コードを持っている場合は、72 ページの手順 3 に進んでシート・ライセンスをインストールします。

それ以外の場合は、[Cancel] をクリックします (QuickTest を開いたときにシート・ライセンスをインストールするよう求められます)。

### DCOM のアクセス許可変更による QuickTest のリモート実行の有効化

本項では、DCOM のアクセス許可を手作業で変更してファイアウォールのポートを開き、QuickTest のリモート実行を可能にする方法を説明します。これらの変更は、QuickTest を Windows XP Service Pack 2, Windows 2003 Server Service Pack 1 (またはそれ以降)、あるいは Windows Vista 上で実行している場合にのみ必要です。

QuickTest のインストール中にこれらの変更を自動的に行うように選択した場合、手作業によるこれらの変更を行う必要はありません。QuickTest テストを Quality Center からリモート実行する予定がない場合、手作業によるこれらの変更は必要ありません。

---

**注：**本項で説明するセキュリティ設定の変更は、システム管理者が行うことをお勧めします。Windows XP Service Pack 2, Windows 2003 Server Service Pack 1 (またはそれ以降) あるいは Windows Vista における DCOM のセキュリティの変更に関する質問は、マイクロソフトのサポートにお問い合わせください。

---

---

**ヒント：**Mercury カスタマー・サポートのナレッジ・ベースに、これらの変更の実行を支援するユーティリティがあります。詳細については、**QuickTest Professional ナレッジ・ベース** (<http://support.mercury.com/cgi-bin/portal/CSO/kbBrowse.jsp>) を参照し、Problem ID 43245 を検索してください。

---

次の手順に加えて、テストをリモート実行する前に [QuickTest オプション] ダイアログ・ボックスの [他の Mercury 製品でテストおよびコンポーネントを実行可能にする] オプションが選択されていることを確認する必要があります。詳細については、『Mercury QuickTest Professional User's Guide』(英語版) を参照してください。

**Windows にリモート・ユーザを認証させるには、次の手順を実行します。**

- 1 両方のコンピュータを同じドメインに追加します。
- 2 両方のマシンにログインするドメイン・ユーザを、QuickTest コンピュータの Local Administrators グループに追加します。こうすることで Windows は、DCOM オブジェクトを対象とするテストを行うリモート・ユーザを認証できるようになります。

**DCOM 用にポート 135 を通過できるように Windows のファイアウォールを設定するには、次の手順を実行します。**

---

**注：** Windows XP Service Pack 2, Windows 2003 Server あるいは Windows Vista にインストールされているファイアウォールを無効にしている場合、次の手順で説明するように DCOM 用にポート 135 を開く必要はありません。

---

- 1 QuickTest コンピュータ上で、[スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [Windows ファイアウォール] を選択します。[Windows ファイアウォール] ダイアログ・ボックスが開きます。
  - 2 [例外] タブを選択します。
  - 3 [プログラムの追加] をクリックします。[プログラムの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。
  - 4 [Remote Agent] (< **QuickTest Professional のインストール先** > ¥ bin¥ **AQTRmtAgent.exe**) を選択または参照して、[OK] をクリックします。
- 

**注：** 前述の説明のように [Remote Agent] を例外として設定しないと、テストのリモート実行中に Windows セキュリティ警告が表示されます。この問題を解決するには [ブロックを解除する] をクリックします。次回から自動テストをリモート実行したときに警告が表示されなくなります。

---

- 5 [OK] をクリックし、[Windows ファイアウォール] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 

**注：** 詳細については、よく使用されるサービスのポートの割り当て一覧が下記の場所にあります。

[http://www.microsoft.com/resources/documentation/Windows/2000/server/reskit/en-us/Default.asp?url=/resources/documentation/windows/2000/server/reskit/en-us/cnet/cnfc\\_por\\_SIMW.asp](http://www.microsoft.com/resources/documentation/Windows/2000/server/reskit/en-us/Default.asp?url=/resources/documentation/windows/2000/server/reskit/en-us/cnet/cnfc_por_SIMW.asp)

---

DCOM のセキュリティ・プロパティを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択し、**dcomcnfg** と入力して、ENTER キーを押します。[コンポーネント サービス] ウィンドウが表示されます。
- 2 [コンソール ルート] > [コンポーネント サービス] > [コンピュータ] > [マイ コンピュータ] に移動します。

---

**注：** Windows セキュリティ警告が表示されたら、[後で確認する] または [ブロックを解除する] をクリックします。

---

- 3 [マイ コンピュータ] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
- 4 [既定のプロパティ] タブを選択します。
- 5 [既定の偽装レベル] が [識別する] になっていることを確認して、[適用] をクリックします。
- 6 [COM セキュリティ] タブを選択します。
- 7 [アクセス許可] 領域で、[制限の編集] をクリックします。[アクセス許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 8 [追加] をクリックします。[ユーザーまたはグループの選択] ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 9 [詳細設定] をクリックします。
- 10 [場所] をクリックします。ダイアログ・ボックスの中で、対象コンピュータの名前を選択し、[OK] をクリックします。
- 11 [今すぐ検索] をクリックします。
- 12 ローカル・マシンの以下のユーザおよびグループを選択して、[OK] をクリックします。
  - ▶ Administrator
  - ▶ Administrators
  - ▶ Authenticated Users
  - ▶ Anonymous Logon

- ▶ Everyone
  - ▶ Interactive
  - ▶ Network
  - ▶ System
- 13 ドメインに属する次のユーザを追加し、[OK] をクリックします。
    - ▶ < QuickTest コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
    - ▶ < リモート実行を行う Quality Center コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
  - 14 [アクセス許可] ダイアログ・ボックスで、[ローカル アクセス] と [リモート アクセス] の許可をリスト内のグループとユーザに割り当て、[OK] をクリックします。
  - 15 [起動とアクティブ化のアクセス許可] 領域で、[制限の編集] をクリックします。[起動許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
  - 16 手順 8 から 13 を繰り返します。
  - 17 [起動許可] ダイアログ・ボックスで、[ローカルからの起動]、[リモートからの起動]、[ローカルからのアクティブ化]、および [リモートからのアクティブ化] の各許可をリスト内のグループとユーザに割り当て、[OK] をクリックします。

**QuickTest Remote Agent DCOM アプリケーションのセキュリティを設定するには、次の手順を実行します。**

- 1 [コンポーネント サービス] ウィンドウで、[コンソール ルート] > [コンポーネント サービス] > [コンピュータ] > [マイ コンピュータ] > [DCOM の構成] に移動します。
- 2 [AQTRmtAgent] 項目を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[AQTRmtAgent のプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [ID] タブで、[対話ユーザー] を選択します。こうすることで、DCOM アプリケーションはログインしている Windows ユーザに対してプロセスの認証を行い、そのセキュリティ・コンテキストの中でプロセスを実行します。
- 4 [セキュリティ] タブを選択します。
- 5 [起動とアクティブ化のアクセス許可] 領域で、[カスタマイズ] を選択し [編集] をクリックします。[起動許可] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 6 [追加] をクリックします。[ユーザーまたはグループの選択] ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 7 [詳細設定] をクリックします。
- 8 [場所] をクリックします。ダイアログ・ボックスの中で、対象コンピュータの名前を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [今すぐ検索] をクリックします。
- 10 ローカル・マシンの以下のユーザおよびグループを選択して、[OK] をクリックします。
  - ▶ Administrator
  - ▶ Administrators
  - ▶ Authenticated Users
  - ▶ Anonymous Logon
  - ▶ Everyone
  - ▶ Interactive
  - ▶ Network
  - ▶ System
- 11 ドメインに属する次のユーザを追加し、[OK] をクリックします。
  - ▶ < QuickTest コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
  - ▶ < リモート実行を行う Quality Center コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
- 12 [起動許可] ダイアログ・ボックスで、リスト内のすべてのユーザとグループについて、すべてのアクセス許可で [許可] を選択して、[OK] をクリックします。
- 13 [アクセス許可] 領域で、[カスタマイズ] を選択し [編集] をクリックします。[アクセス許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 14 手順 6 から 12 を繰り返します。
- 15 [適用] をクリックし、変更を保存して [OK] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

- 16 [コンポーネント サービス] ウィンドウを閉じます。
- 17 以上で Quality Center から QuickTest テストをリモート実行できるようになります。

---

**注：**テストをリモート実行する前に [QuickTest オプション] ダイアログ・ボックスの [実行] タブの [他の Mercury 製品でテストおよびコンポーネントを実行可能にする] オプションが選択されていることを確認する必要があります。詳細については、『Mercury QuickTest Professional User's Guide』（英語版）を参照してください。

---

## Windows Vista 上の Quality Center への接続に使用するユーザ・アカウント制御設定の変更

Windows Vista 上で QuickTest を実行している場合、Quality Center に初めて接続する前にユーザ・アカウント制御（UAC : User Account Control）を無効化する必要があります。最初に Quality Center に接続した後で、ユーザ・アカウント制御（UAC : User Account Control）を有効化することができます。

この変更は、QuickTest を Windows Vista 上で実行する場合のみ必要です。QuickTest テストを Quality Center からリモート実行しない場合、これらの変更は必要ありません。

---

**注：**本項で説明するセキュリティ設定の変更は、システム管理者が行うことをお勧めします。Windows Vista 上のユーザ・アカウント制御（UAC : User Account Control）の変更に関しては、Microsoft サポートへお問い合わせください。

---

**Windows Vista 上でユーザ・アカウント制御（UAC : User Account Control）を無効化するには、次の手順を実行します。**

- 1 [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [ユーザー アカウント] をクリックします。
- 2 [ユーザー アカウント制御の有効化または無効化] オプションをクリックします。
- 3 [ユーザー アカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる] チェック・ボックスをクリアします。
- 4 [OK] をクリックします。

## QuickTest Professional プログラム・フォルダの参照について

QuickTest Professional セットアップ・プロセスが完了すると、QuickTest Professional プログラム・フォルダ（[スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional]）に次の項目が追加されます。

---

**注：**更新のインストールを実行している場合、または現在のバージョンをインストールする前に QuickTest Professional の旧バージョンをアンインストールしている場合には、QuickTest Professional プログラム・フォルダに余計な（無効の）項目が追加される場合があります。さらに、QuickTest Professional の外部アドインがある場合には、それらのアドインにだけ関連する項目が、プログラム・フォルダに追加される場合があります。

---

- ▶ **[Documentation]**：次に示すよく使用されるマニュアルへのリンクを提供します。
- ▶ **[QuickTest Automation Reference]**：『QuickTest Automation Reference』（英語版）が開きます。オートメーション・オブジェクト・モデルは、QuickTest のほぼすべての機能を制御することを可能にするオブジェクト、メソッド、プロパティを提供することによって、テスト管理の自動化を支援します。『QuickTest Automation Reference』には、構文、機能説明、およびオブジェクト、メソッド、プロパティの使用例が記載されています。また、QuickTest 自動スクリプトの作成を開始する際に役立つ概要も示されています。
- ▶ **[QuickTest Professional ヘルプ]**：『QuickTest Professional User's Guide』（英語版）、『QuickTest Professional for Business Process Testing User's Guide』（英語版）、アドインがインストールされている場合は対応するユーザーズ・ガイド、『QuickTest Professional Object Model Reference』（インストールされているアドインに関連するセクションを含む。英語版のみ）、および『Microsoft VBScript Reference』（英語版）が含まれる包括的なヘルプ・ファイルが開きます。
- ▶ **[印刷用ドキュメント]**：QuickTest のすべてのマニュアルの印刷用バージョンへのリンクが含まれるページが Adobe Acrobat Reader（PDF）形式で開きます。
- ▶ **[Tutorial]**：QuickTest Professional チュートリアルが開きます。このチュートリアルでは、QuickTest の基本技術、およびアプリケーションのテストを開始する方法について説明します。

- ▶ **[QuickTest Professional Code Samples Plus]** : QuickTest Professional Code Samples Plus ヘルプを開きます。以前のバージョンでの、よくある質問の回答、ヒントやコツ、サンプルの関数ライブラリ、およびコードと SDK サンプルを提供します。QuickTest Professional Code Samples Plus から使用できたユーティリティ、機能および情報は、メインの QuickTest Professional アプリケーションに組み込まれています。
- ▶ **[Tools]** : 次に示す、テスト・プロセスを支援するユーティリティとツールが収められています。
  - ▶ **[Remote Agent]** : リモート・エージェントを有効にします。QuickTest リモート・エージェントは、Quality Center などのリモート・アプリケーションによってテストが実行される際の QuickTest の振る舞いを決定します。詳細については、『QuickTest Professional User's Guide』（英語版）を参照してください。
  - ▶ **[Password Encoder]** : [パスワードエンコーダ] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは、パスワードを暗号化できます。生成された文字列は、メソッドの引数またはデータ・テーブルのパラメータ値として使用できます（テストのみ）。詳細については、『QuickTest Professional User's Guide』（英語版）を参照してください。
  - ▶ **[Test Batch Runner]** : (テストにのみ関連) [Test Batch Runner] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは、連続して数回テストが実行されるように QuickTest を設定できます。詳細については、『QuickTest Professional User's Guide』（英語版）を参照してください。
  - ▶ **[Test Results Deletion Tool]** : [テスト結果削除ツール] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは、定義された特定の条件に基づいて、不要な結果をシステムから削除できます。詳細については、『QuickTest Professional User's Guide』（英語版）を参照してください。
  - ▶ **[Action Conversion Tool]** : QuickTest Professional を使用して作成したテスト・アクションをコンポーネントに変換し、Business Process Testing で使用できるようにします。詳細については、[Action Conversion Tool] ウィンドウの **[ヘルプ]** ボタンをクリックしてください。
  - ▶ **[Silent Test Runner]** : (テストにのみ関連) [サイレントテストランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは LoadRunner および Business Availability Center からテストを実行する場合と同じように QuickTest テストを実行できます。詳細については、『QuickTest Professional User's Guide』（英語版）を参照してください。

- ▶ **[License Validation Utility]** : ライセンス検証ユーティリティを開き、ライセンス情報を取得および検証できます。詳細については、『**QuickTest Professional User's Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ **[Register New Browser Control Utility]** : [Register New Browser Control] ユーティリティを開きます。テストの記録時と実行時に QuickTest Professional が Web オブジェクトを認識するように、ブラウザ・コントロール・アプリケーションを登録できます。詳細については、『**QuickTest Professional User's Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ **[Mercury Micro Player]** : Mercury Micro Player を開きます。QuickTest を開かずにキャプチャされた実行セッションのムービーを表示できます。詳細については、『**QuickTest Professional User's Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ **[Sample Applications]** : 次に示す、QuickTest でのテストの練習に使用できるサンプル・アプリケーションへのリンクが収められています。
  - ▶ **[Flight]** : サンプルのフライト予約 Windows アプリケーションが開きます。このアプリケーションにアクセスするには、任意のユーザ名とパスワード (**mercury**) を入力します。
  - ▶ **[Mercury Tours Web Site]** : サンプルのフライト予約 Web アプリケーションが開きます。この Web アプリケーションは、QuickTest のチュートリアルで使用します。詳細については、『**Mercury QuickTest Professional チュートリアル**』を参照してください。
- ▶ **[QuickTest Professional]** : QuickTest Professional アプリケーションが開きます。
- ▶ **[Test Results Viewer]** : [テスト結果] ウィンドウが開きます。このウィンドウでは、テスト、コンポーネント、またはビジネス・プロセス・テストを選択して、実行セッションで実行されたステップに関する情報を表示できます。詳細については、『**QuickTest Professional User's Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ **[Readme]** : 「QuickTest Professional 最初にお読みください」が開きます。「最初にお読みください」には、QuickTest Professional に関する最新のニュースと情報が記載されています。
- ▶ **[更新を確認する]** : QuickTest Professional に有効な更新がないかオンラインで確認します。ダウンロードしてインストール（任意）する更新を選択できます。詳細については、『**QuickTest Professional User's Guide**』（英語版）を参照してください。

- ▶ **[QuickTest Professional のアンインストール]** : QuickTest Professional, および組み込みアドインと外部アドインを含むすべてのコンポーネントをアンインストールします。詳細については、101 ページ「QuickTest Professional の保守とアンインストール」を参照してください。

## サイレント・インストールの設定

使用しているコンピュータで QuickTest セットアップ・アプリケーションをサイレントで実行できます。この場合、セットアップ・プロセスはすべてバックグラウンドで実行されるので、セットアップ画面で操作を行う必要がありません。

サイレント・インストールを実行する前に、ユーザ（またはシステム管理者）は同じ設定のコンピュータの QuickTest の最初のシート・インストールの設定を記録しておく必要があります。サイレント・インストールでは、記録した設定の正確なコピーがインストールされます。

---

注 : QuickTest のサイレント・インストールを行うには、サイレント・インストール・プロセスの記録と実行の前に Microsoft NET Framework version 2.0 がインストールされている必要があります。

サイレント・インストールは Windows XP 64-Bit Edition ではサポートされていません。

---

### アドインのサイレント・インストールのセットアップ

QuickTest Professional の外部アドインと Quality Center アドインのインストールには、サイレント・インストールのメカニズムを使用できます。

QuickTest Professional のアドインのインストールは、QuickTest Professional のコア・インストールとほぼ同じ方法でサイレント実行できますが、次の違いがあります。

- ▶ 同じ設定のコンピュータと同じ設定の QuickTest Professional を使うアドインのインストールの設定を記録する必要があります。

- ▶ QuickTest Professional のアドインのインストールを行った場合には、QuickTest Professional のコアのインストールで **Setup.iss** ファイルを保存した場所とは別の場所に、アドインの **Setup.iss** ファイルを保存しなければなりません。

### 最初のシート・インストールの記録

最初のインストールの記録は、その記録を使ってサイレント・インストールを行うコンピュータと、以下の設定要素が同じコンピュータで行います。

- ▶ オペレーティング・システムが同じ
- ▶ インストール・ファイルのドライブ名が同じ
- ▶ サイレント・インストールの実行前に、どちらのコンピュータにも QuickTest がインストールされていない

---

**注：** どちらかのコンピュータにすでに QuickTest がインストールされている場合は、サイレント・インストール・プロセスを開始する前に QuickTest をアンインストールし、両方のコンピュータの設定を同じにする必要があります。

---

インストール・プロセスの記録中に行った選択は記録され、記録側コンピュータの Windows インストール・フォルダにある **Setup.iss** ファイルに保存されます。

シート・インストールを記録するには、次の手順を実行します。

- 1 CD-ROM ドライブに QuickTest Professional インストール CD-ROM を挿入します。
- 2 インストールを記録するコンピュータ（記録側コンピュータ）で [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択し、「< QuickTest インストール CD-ROM > %QuickTest%setup.exe -r」と入力します。

---

**注** : **Setup.iss** ファイルは自動的に **setup.exe** ファイルと同じディレクトリに保存されます。**Setup.iss** ファイルを異なる場所に指定する場合は、**-f1** オプションを使ってフル・パスを指定します。例を次に示します。

**< QuickTest インストール CD-ROM > %QuickTest%setup.exe -r -f1"C:  
%MyDir%Setup.iss"**

アドインのシート・インストールを記録している場合は、コアのインストールで作成された **Setup.iss** ファイルとは別の場所にシート・インストールの **Setup.iss** ファイルを保存しなければなりません。

---

- 3 [OK] をクリックします。QuickTest のインストールが始まります。QuickTest のインストール方法の詳細については、22 ページ「QuickTest Professional のインストール」を参照してください。インストールの記録中は、次の点に注意してください。
- ▶ [ライセンスの種類] 画面では、[シート] を選択します。
  - ▶ インストール先フォルダを指定する画面では、すべてのサイレント・インストール・ユーザのコンピュータにあるドライブを選択します。選択したインストール先フォルダがすでにコンピュータに存在する場合は、そのフォルダがすべてのサイレント・インストール・ユーザについて存在することを確認します。選択したフォルダが新しいフォルダの場合は、すべてのユーザについてインストール先フォルダが新しいフォルダになるようにします。
  - ▶ [ユーザ登録] 画面では、[今すぐ登録する] チェック・ボックスをクリアします。後で MIJ ライセンス・センターの Web サイトで登録します。[今すぐ登録する] チェック・ボックスを選択すると、サイレント・インストール・ユーザはダイアログ・ボックスや Web ページへの応答が必要になり、完全なサイレント・インストールではなくなります。
  - ▶ インストール中にインストールすべき重要な更新が発見された場合は、[検出されたアップデートを適用しない] を選択します。サイレント・インストールの実行中には、重要な更新のダウンロードおよびインストールは行えません。サイレント・インストールを行ったコンピュータには後からでも重要な更新をインストールできます。その場合は、[スタート] メニューから [QuickTest Professional] プログラム・グループを開いて、[更新を確認する] を選択します。



- ▶ InstallShield ウィザードの完了画面では、インストール・プロセスが正常に完了するように **「はい、今すぐコンピュータを再起動します」** を選択することをお勧めします。サイレント・インストールのコンピュータは、この画面で選択したオプションに関係なく、サイレント・インストール・プロセスの終了時に自動的に再起動されます。

- 4 コンピュータが再起動されたら、記録側コンピュータの Windows インストール・フォルダから **Setup.iss** ファイルをネットワーク・フォルダまたはサイレント・インストールを実行するローカル・コンピュータにコピーします。

### サイレント・インストールの実行

記録されたインストールに基づいて、QuickTest のサイレント・インストールを実行できます。これにより、記録されているインストールと同じインストール・オプションとコンポーネントが設定された QuickTest をコンピュータにインストールできます。このとき、インストール画面で操作を行う必要はありません。

インストールを始める前に、記録側のコンピュータで作成された **Setup.iss** ファイルのパスを確認しておく必要があります。

**サイレント・インストールは、次の手順で実行します。**

- 1 サイレント・インストールを実行する前に、開いているファイルをすべて保存し、実行中のアプリケーションをすべて終了することをお勧めします。

---

**重要な注意：** サイレント・インストールが完了すると、コンピュータは自動的に再起動されます。

---

- QuickTest をサイレント・インストールしたいコンピュータで [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択し、次を入力します。  
< QuickTest のインストール・ファイルのパス > %QuickTest%setup.exe -s -f1"  
< setup.iss のパス > "

---

**注** : Setup.iss ファイルが setup.exe ファイルと同じディレクトリにある場合は、パスを指定する必要はありません。サイレント・インストールによって自動的に作成されるログ・ファイルの名前または場所、あるいはその両方を指定する場合は、-f2 オプションを使って絶対パスを指定します。例を次に示します。

< QuickTest インストール・ファイルのパス > %QuickTest%setup.exe -s -f1"C:%Mydir%Setup.iss" -f2"C:%Mydir%Setup.log"

ログ・ファイルの名前またはパスを指定しない場合は、Setup.log という名前で、Setup.iss ファイルと同じディレクトリに作成されます。

---

- [OK] をクリックします。インストールが開始され、バックグラウンドで実行されます。インストールには数分かかります。

サイレント・インストールが完了すると、コンピュータは自動的に再起動されます。

### サイレント・インストールのログ・ファイルの使用方法

サイレント・インストールのステータスに関する情報は、サイレント・インストールによって作成されるログ・ファイルに記載されます。サイレント・インストールにおける問題の原因を特定する際にログ・ファイルの情報を利用できます。

標準では、ログ・ファイルは Setup.log という名前で、Setup.iss ファイルと同じフォルダにあります。サイレント・インストールの実行中に -f2 オプションを使用した場合、ログ・ファイルの名前または場所は異なることがあります。

Setup.log ファイルには3つのセクションがあります。最初のセクションである [InstallShield Silent] には、サイレント・インストールに使用した InstallShield Silent のバージョンが示されます。また、このセクションによってファイルがログ・ファイルであると識別されます。

2番目のセクションである [Application] には、インストールされたアプリケーションの名前とバージョン、およびユーザの会社名が示されます。

3番目のセクションである [ResponseResult] には、サイレント・インストールが成功したかどうかを表す結果コードが示されます。次に示すように、結果コードはサイレント・インストールのステータスを表します。

インストール結果コード	詳細
0	サイレント・インストールは正常に実行された。
1	一般的なエラー。
2	無効なモード。
3	必要なデータが <b>Setup.iss</b> ファイルにない。
4	メモリ不足。
5	ファイルが存在しない。
6	<b>Setup.iss</b> ファイルに書き込めない。
7	ログ・ファイルに書き込めない。
8	<b>Setup.iss</b> ファイルへのパスが無効。
9	有効なリスト型（文字列または数字）ではない。
10	無効なデータ型。
11	セットアップ時の不特定のエラー。
12	予想される順序で画面が表示されない。
51	指定されたフォルダを作成できない。
52	指定されたファイルまたはフォルダにアクセスできない。
53	無効なオプションが選択された。

### サイレント・インストールに関する問題のトラブルシューティング

サイレント・インストールの終了時にコンピュータが再起動されない場合、インストールは成功していません。

サイレント・インストール・オプションでは、インストールを記録するコンピュータの設定は、サイレント・インストールを実行するすべてのコンピュータと同じでなければなりません。設定要素が1つでも異なると、サイレント・インストールはインストール・プロセスを完了せずに実行を中止します。

サイレント・インストールが失敗した場合は、前節で説明されているように、ログ・ファイルを調べます。さらに次のことを確認します。

- ▶ サイレント・インストールの前に、記録側コンピュータまたはサイレント・インストール・コンピュータに QuickTest がインストールされていなかったか。

記録側コンピュータとサイレント・インストール・コンピュータの QuickTest の設定が異なっていると、サイレント・インストールは失敗します。

どちらかのコンピュータにすでに QuickTest がインストールされている場合は、サイレント・インストール・プロセスを開始する前に QuickTest をアンインストールし、両方のコンピュータの設定を同じにする必要があります。

- ▶ サイレント・インストール・コンピュータに、記録側コンピュータがインストール先フォルダに使用したドライブと同じ名前のドライブがあるか。

セットアップ・プログラムはサイレント・インストール時に、記録側コンピュータによって選択されたパスに QuickTest ファイルをインストールしようとします。サイレント・インストール・コンピュータで同じドライブが使用可能でないと、サイレント・インストールは失敗します。

- ▶ 選択されたインストール先フォルダが存在するコンピュータと存在しないコンピュータが混在していないか。

インストール先に新しいフォルダを選択すると、セットアップ・プログラムは新しいフォルダを作成するかどうか尋ねます。既存のフォルダを選択した場合、セットアップ・プログラムは新しいフォルダを作成しません。新しいフォルダを作成するかどうかを確認するメッセージが必要なコンピュータと不要なコンピュータが混在する場合、サイレント・インストールは失敗します。

- ▶ どのコンピュータでも同じオペレーティング・システムが使われているか。

使用しているオペレーティング・システムが違うために特別な手順が必要なコンピュータが1つでも存在すれば、サイレント・インストールは失敗します。

- ▶ インストールの記録中に [カスタマ登録] 画面で [今すぐ登録する] が選択されていなかったか (標準設定では選択されています)。

選択されている場合はユーザの入力が必要になるので、サイレント・インストールになりません。MIJ ライセンス・センターの Web サイトでユーザ登録をする必要があるためです。

ユーザ (またはシステム管理者) がインストールを記録する際には、[カスタマ登録] 画面の [今すぐ登録する] チェック・ボックスをクリアしておくことをお勧めします。

ログ・ファイルの情報を調べ、このトラブルシューティングの節で説明されている問題をすべて調べてもサイレント・インストールを正常に実行できない場合は、Mercury のカスタマー・サポートにお問い合わせください。

## QuickTest Professional Japanese User Interface Pack のインストール手順

日本語版 Windows では、Japanese User Interface Pack CD-ROM から User Interface Pack をインストールすることで、ユーザ・インタフェースおよびオンライン文書を日本語でご覧になれます。

---

**注：** User Interface Pack をインストールする前に、QuickTest Professional CD-ROM から QuickTest Professional のプログラムをインストールしておく必要があります。

---

### User Interface Pack のインストール

User Interface Pack の CD-ROM には、インストール用のセットアップ・プログラムが含まれています。

お使いのコンピュータに **User Interface Pack** をインストールするには、次の手順を実行してください。

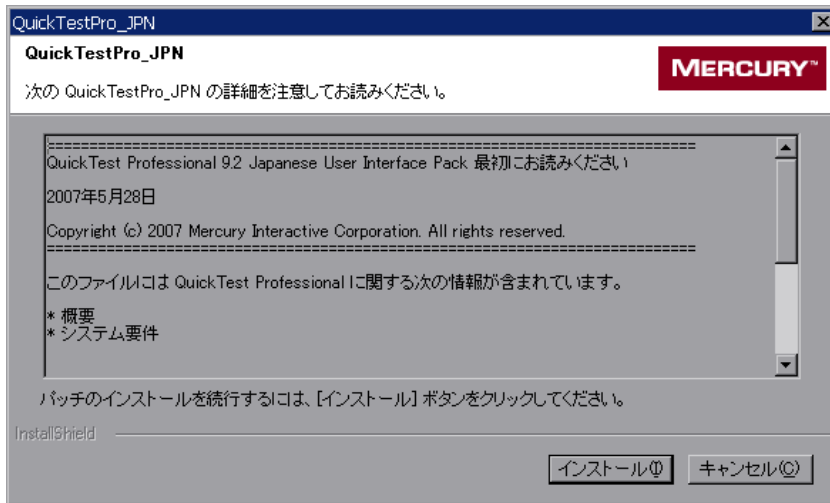
- 1 CD-ROM ドライブに User Interface Pack CD-ROM を挿入します。お使いのコンピュータの CD-ROM ドライブからインストールする場合は、[User Interface Pack セットアップ] ウィンドウが開きます。ネットワーク経由で接続されているコンピュータからインストールする場合は、CD-ROM のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[User Interface Pack セットアップ] ウィンドウが開きます。



- ▶ 製品情報の Web サイト (<http://www.mercury.com/jp/products/quality-center/functional-testing/quicktest-professional>) を開くには [製品情報] をクリックします。
- ▶ Readme ファイルを表示する場合は、[最初にお読みください] をクリックします。

- ▶ コンピュータにインストールされている Quality Center (旧 TestDirector) クライアントが、Quality Center に保存されている QuickTest のテストを使用できるようにするには、[Quality Center アドイン] をクリックします。このアドインをインストールすると、Quality Center 内の QuickTest Professional テストを使用できるようになります。また、Quality Center でテストを実行し、テスト結果を表示することもできるようになります。Quality Center の QuickTest Professional アドインの詳細については、[QuickTest Professional アドイン] 画面 (Quality Center のメイン画面からアクセス可能) を参照してください。
- ▶ Mercury の Web サイトにあるお問い合わせ情報のページ (<http://www.mercury.com/jp/company/corporate-info/contact-us>) を開くには、[Mercury へのお問い合わせ] をクリックします。
- ▶ Mercury のカスタマー・サポートの Web サイト (<http://www.mercury.com/jp/services/support/>) を開くには、[サポート] をクリックします。
- ▶ User Interface Pack の CD-ROM の内容を確認するには、[CD の参照] をクリックします。
- ▶ [User Interface Pack セットアップ] ウィンドウを終了するには、[終了] をクリックします。
- 2 [User Interface Pack セットアップ] をクリックすると、User Interface Pack セットアップ・プログラムが起動します。

- 3 User Interface Pack セットアップ・プログラムが起動し、User Interface Pack の詳細表示画面が開きます。詳細を読みます。

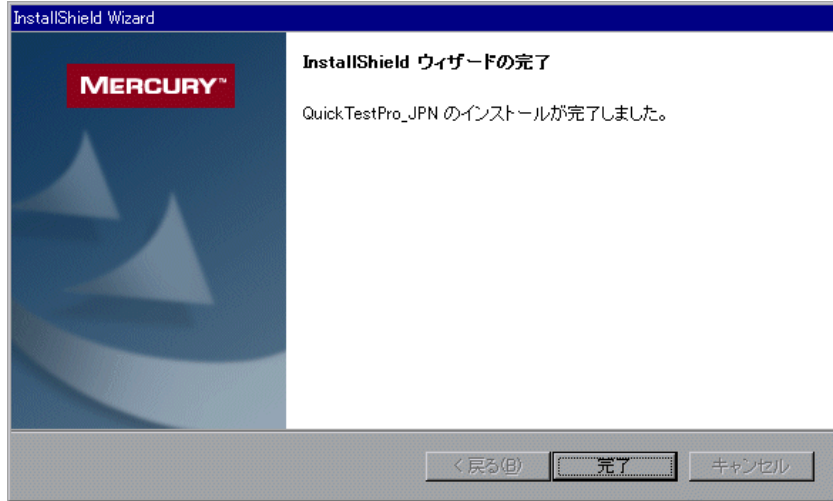


User Interface Pack をインストールするには、詳細を注意して読み、[インストール] をクリックします。[キャンセル] をクリックすると、セットアップ・プログラムは終了します。

- 4 インストール・プロセスが始まります。User Interface Pack は、QuickTest Professional プログラムのインストールの際に指定したパスに自動的にインストールされます。



- 5 [InstallShield ウィザードの完了] ウィンドウが表示されます。



[完了] をクリックしてセットアップ・プロセスを完了します。これで、User Interface Pack のインストールが完了します。

---

注：QuickTest Professional を起動する前に、User Interface Pack をインストールすることをお勧めします。User Interface Pack をインストールした後もオブジェクト・リポジトリ・ユーティリティ内のメニューやツールバーが英語のままの場合、QuickTest Professional を終了し、<QuickTest インストール・フォルダ>¥bin フォルダから次のファイル（存在する場合）を削除する必要があります。

MergePanesDefaultLayout.xml

MergePanesDefaultLayoutUFL.xml

MergePanesLayout.xml

MergePanesLayoutUFL.xml

MergeToolBarLayout.xml

MergeToolBarLayoutUFL.xml

ORMToolBarLayout.xml

ORQTUIToolBarLayout.xml

---



# 第 3 章

## QuickTest Professional ライセンスの使用方法

QuickTest Professional は、シート・ライセンス（旧ローカル・ライセンスまたはスタンドアロン・ライセンス）あるいはコンカレント・ライセンス（旧フローティング・ライセンス）を使用してインストールできます。

本章の内容	ページ
QuickTest のライセンスの種類について	66
シート・ライセンス・キーの申請	68
シート・ライセンス・キーのインストール	69
コンカレント・ライセンスの使用	75
ライセンス情報の変更	80
LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定	82
コムーター・ライセンスの使用	84
QuickTest ライセンスの検証	97

## QuickTest のライセンスの種類について

QuickTest Professional を使用するには、有効なライセンスが必要です。ライセンスにはシートとコンカレントの2種類があります。次の表に、2種類のライセンスの違いをまとめます。

トピック	シート・ライセンス	コンカレント・ライセンス
概要	インストール先のコンピュータ固有のライセンスです。	1ライセンスにつき1人のコンカレント・ユーザを追加できます。
ライセンス・キーあたりのインストール数	QuickTest Professional のインストール先ごとに異なるライセンス・キーが必要です。	ネットワークにインストールできる の数に制限はありませんが、専用のコンカレント・ライセンス・サーバによって一度に実行できる の数が制限されます。
メンテナンス番号	ライセンス・キーの一部は、メンテナンス番号に基づいています。メンテナンス番号によってお客様を識別します。	ライセンス・キーの一部は、メンテナンス番号に基づいています。メンテナンス番号でお客様を識別し、そのライセンスで何人のコンカレント・ユーザがサポートされているかを示します。

トピック	シート・ライセンス	コンカレント・ライセンス
その他の問題	<p>ライセンス・キーは一部、ロッキング・コードに基づいています。ロッキング・コードは QuickTest Professional がインストールされているコンピュータを識別するコードです。提供されるライセンス・キーはロッキング・コードが生成されたコンピュータだけで動作します。</p> <p><b>注：</b>複数の起動パーティションを持つコンピュータは、パーティションごとに異なるロッキング・コードを生成することがあります。パーティション用に異なるロッキング・コードが生成された場合には、専用のライセンス・キーを申請する必要があります。</p>	<p>UNIX ネットワークはサポートされていません。</p> <p>コンカレント・ライセンス・サーバには固定 IP アドレスを割り当てることをお勧めします。</p> <p>QuickTest Professional クライアント・コンピュータには TCP/IP がインストールされている必要があります。</p> <p>コンカレント・ライセンスをネットワーク上で使用するには、サーバで UDP ポート 5093 を開く必要があります。</p>
ライセンス・キーの入力	<p>インストール手順の最後に、QuickTest にライセンス・キーの入力を求められます。この時点でライセンス・キーがなかった場合は、QuickTest を最初に開いたときにキーの入力を求められます。</p>	<p>QuickTest を起動するたびにコンカレント・ライセンス・サーバが同じサブネット内で検索されます。インストールされている QuickTest クライアントのためのライセンス・キーを入力する必要はありません。</p>

必要に応じて、ライセンス情報およびライセンス検証情報の表示とコピーを行うことができます。たとえば、管理またはトラブルシューティングを目的として、ライセンス情報を取得できます。詳細については、97 ページ「QuickTest ライセンスの検証」を参照してください。

## シート・ライセンス・キーの申請

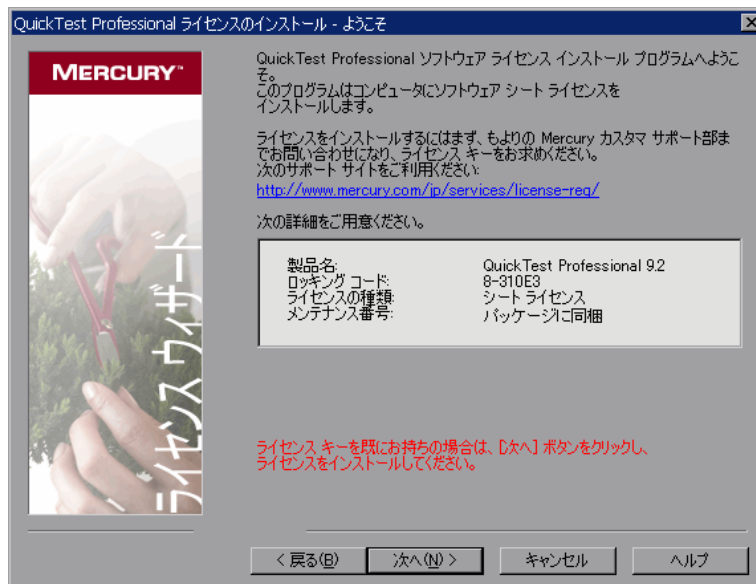
シート・ライセンスを使って初めて QuickTest Professional をインストールする場合、14 日間のデモ・ライセンスが含まれます。14 日を超えて QuickTest Professional を使用する場合は、QuickTest Professional 用のライセンス・キーを申請し、有効にする必要があります。

シート・ライセンス・キーを申請するには、次の手順を実行します。

1 次の手順のいずれかを実行します。

- ▶ QuickTest Professional を起動すると表示されるライセンス警告メッセージの中で **[インストール]** をクリックします。
- ▶ QuickTest Professional の中から **[ヘルプ]** > **[QuickTest Professional のバージョン情報]** を選択します。[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスが開きます。**[ライセンス]** をクリックします。[ライセンスのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。**[ライセンスの変更]** をクリックします。

QuickTest Professional ライセンス インストール - ライセンスの種類] 画面が開きます。**[シート ライセンス]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。**[はい]** をクリックして新しいライセンス・キーをインストールします。**[よろこ]** 画面が開きます。



- 2 ライセンス・キーを申請するには、[ようこそ] 画面の中央にあるリンクをクリックするか、MIJ ライセンス・センターへのライセンス申請ページ (<http://www.mercury.com/jp/services/license-req/>) を参照します。オンライン・フォームに情報を入力します。ロッキング・コード、ライセンスの種類、メンテナンス番号を、[ようこそ] 画面からコピーして貼り付ける必要があります。フォームを送信した後、電子メールを通じてライセンス・キーが送られます。
- 3 **[キャンセル]** をクリックし、ライセンス・キーが電子メールで届くまで待ちます。ライセンス・キーが届いたら、次の手順を実行します。

## シート・ライセンス・キーのインストール

MIJ ライセンス・センターからライセンス・キーを受け取ったら、それをインストールする必要があります。

---

**注：**ライセンス・キーをインストールするには、管理者権限が必要です。シート・ライセンス・キーは、リモートからインストールできません（たとえば、Symantec pcAnywhere, Citrix, Terminal Server を使用してのインストール）。

---

シート・ライセンス・キーをインストールするには、次の手順を実行します。

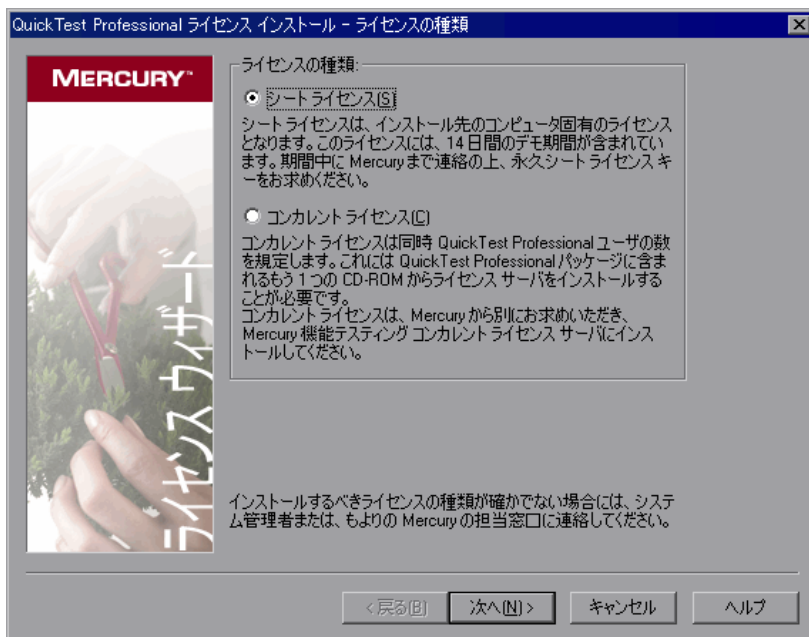
- 1 次の手順のいずれかを実行します。
  - ▶ QuickTest Professional を起動すると表示される警告メッセージの中で **[インストール]** をクリックします。
  - ▶ QuickTest Professional の中から **[ヘルプ]** > **[QuickTest Professional のバージョン情報]** を選択します。[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスの中で **[ライセンス]** をクリックします。[ライセンスのサマリ] ダイアログ・ボックスの中で **[ライセンスの変更]** をクリックします。

---

**注：**QuickTest のインストールの一環として、シート・ライセンスを有効化できます。最後のインストール画面で **[完了]** をクリックすると、[QuickTest Professional ライセンスのインストール - ようこそ] 画面が次のように開きます。

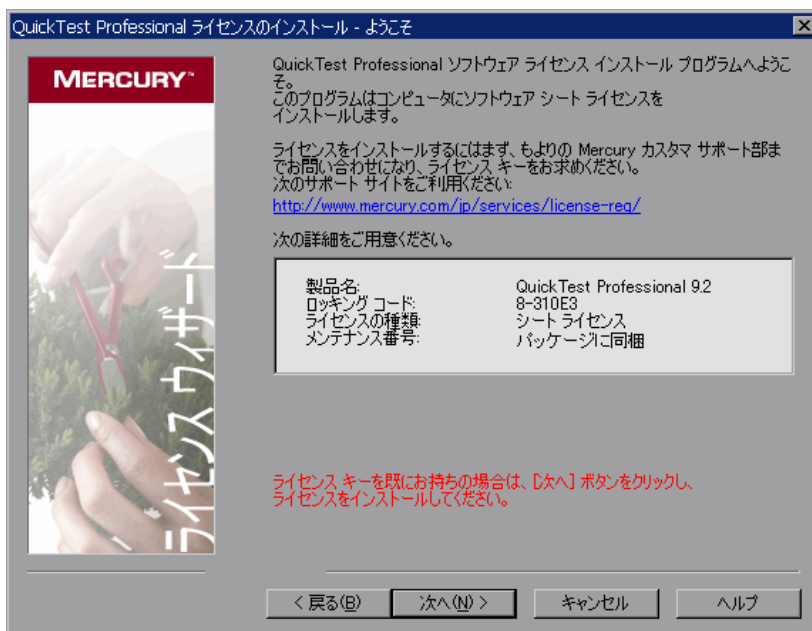
---

[ライセンスの種類] 画面が開きます。



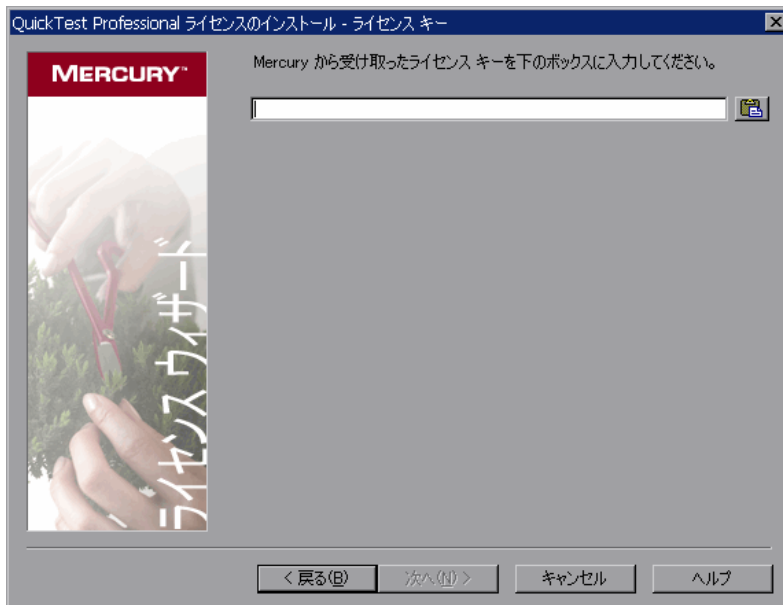


- 2 [シートライセンス] を選択し、[次へ] をクリックします。確認ボックスで、[はい] をクリックして新しいライセンス・キーをインストールします。[よろこぞ] 画面が開きます。



**ヒント：**この画面に表示されているロッキング・コードと、Mercury にライセンス・キーを要求したときに送ったロッキング・コードが一致することを確認します。

- 3 [次へ] をクリックしてライセンスのインストールを開始します。[ライセンスキー] 画面が開きます。



---

**注：**

ライセンス・キーは、MIJ ライセンス・センターへのライセンス申請に使用したロッキング・コードを持つコンピュータでのみ有効です。

複数の起動パーティションを持つコンピュータは、パーティションごとに異なるロッキング・コードを生成することがあります。パーティション用に異なるロッキング・コードが生成された場合には、専用のライセンス・キーを申請する必要があります。

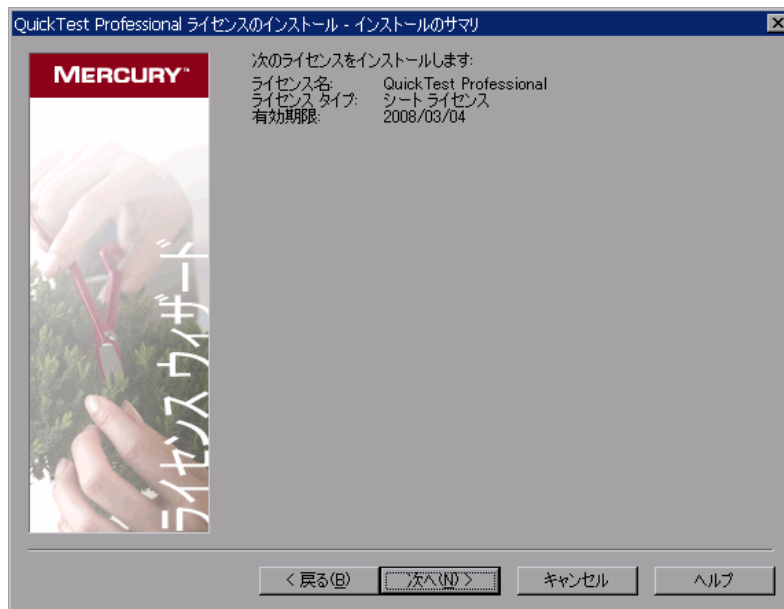
---

- 4 Mercury から届いたライセンス・キーを入力します。ライセンス・キーの最後にある # 文字も入力します。



ヒント：ライセンス・キーをクリップボードにコピーした場合は、**[クリップボードから貼り付け]** ボタンをクリックしてライセンス・キー・ボックスに貼り付けることができます。

- 5 **[次へ]** をクリックします。**[インストールのサマリ]** 画面が開きます。



- 6 情報が正しいことを確認し、**[次へ]** をクリックします。**[完了]** 画面が開きます。



有効なライセンス・キーを入力すると、**[完了]** 画面でライセンス・キーが正しくインストールされたことが確認できます。

ライセンスを正しくインストールできなかった場合は、その理由を示すメッセージが表示されます。たとえば、シート・ライセンスが以前にコンピュータにインストールされていた場合に、同じライセンス・キーを使用してもう一度シート・ライセンスをインストールしようとする、ライセンスが正しくインストールされません。ライセンスを正しくインストールできなかった場合は、**[サポートに送信]** ボタンが表示されます。**[サポートに送信]** をクリックすると、ライセンス情報を記入した電子メールを作成して、最寄りの Mercury カスタマー・サポートに送信できます。カスタマー・サポートによる支援が受けられるように、必ず必須情報を電子メールに記入してください。

---

ヒント：必要ならば別のライセンスをインストールできます。これには、**[ライセンスをもう1つインストールする]** チェック・ボックスを選択して**[完了]** をクリックし、69 ページの手順 2 を続行します。

---

- 7 別の QuickTest ライセンスをインストールしない場合は、**[完了]** をクリックし、ライセンスの有効化手順を完了してウィザードを終了します。

## コンカレント・ライセンスの使用

利用可能なライセンスを提供するアクセス可能なコンカレント・ライセンス・サーバがネットワーク上にあれば、コンカレント・ライセンス・サーバに接続できます。これにより、シート・ライセンスの代わりにコンカレント・ライセンスを使用できます。コンカレント・ライセンス・サーバを使った作業と、サポートしているバージョンの詳細については、『**Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide**』（英語版）を参照してください。

---

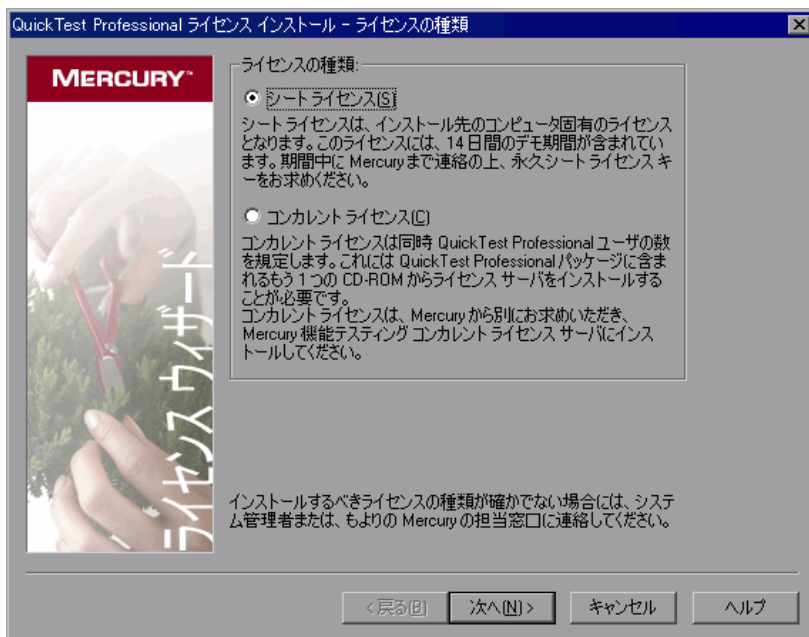
**注：**QuickTest のインストール手順の実行中にコンカレント・ライセンス・サーバを指定することもできます。詳細については、22 ページ「QuickTest Professional のインストール」を参照してください。

---

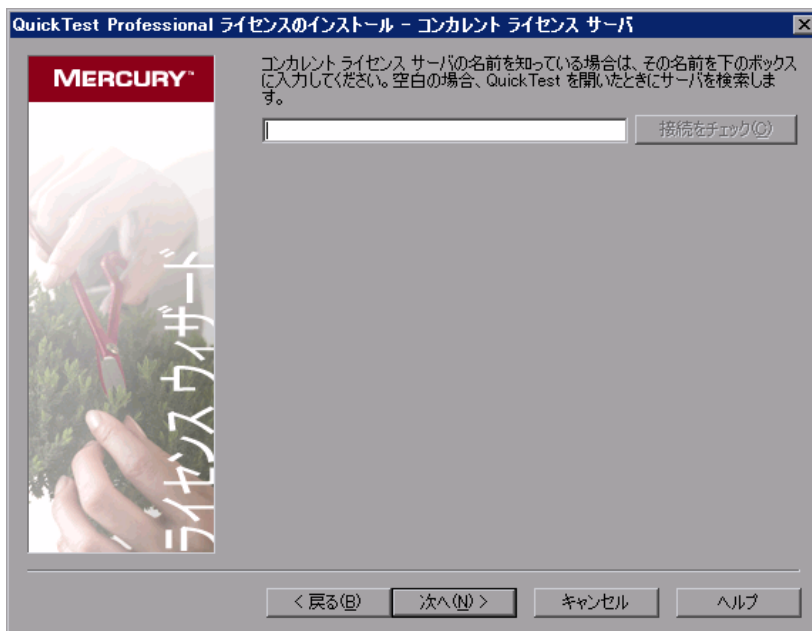
コンカレント・ライセンスを使用するには、次の手順を実行します。

- 1 次の手順のいずれかを実行します。
  - ▶ QuickTest Professional を起動すると表示されるライセンス警告メッセージの中で **[インストール]** をクリックします。
  - ▶ QuickTest Professional の中から **[ヘルプ]** > **[QuickTest Professional のバージョン情報]** を選択します。[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスが開きます。**[ライセンス]** をクリックします。[ライセンスのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。**[ライセンスの変更]** をクリックします。

[ライセンスの種類] 画面が開きます。



- 2 [コンカレント ライセンス] を選択し, [次へ] をクリックします。[コンカレント ライセンス サーバ] 画面が開きます。



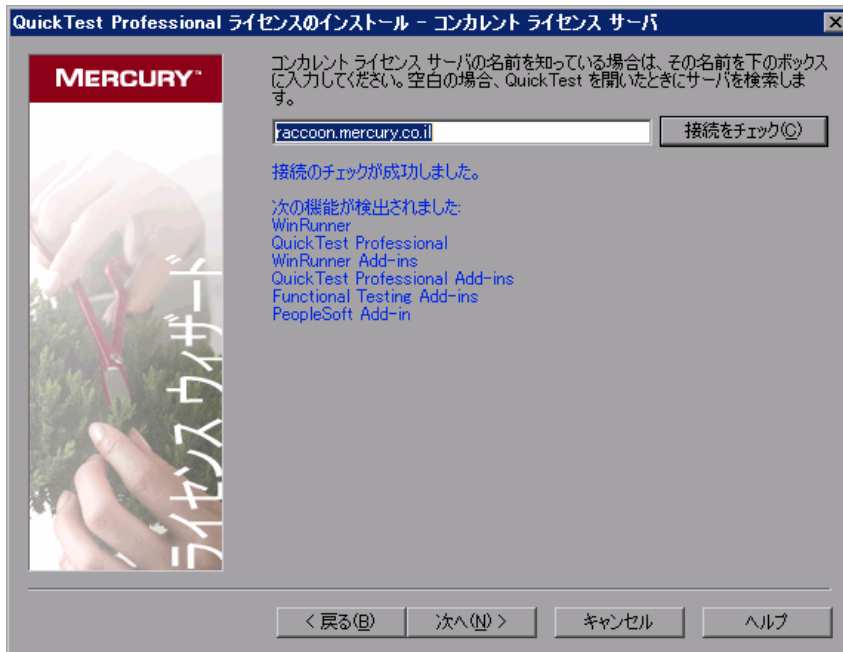
- 3 エディット・ボックスに, 接続先となるコンカレント・ライセンス・サーバの名前または IP アドレスを入力するか, または, ボックスを空のままにして, ローカル・ネットワーク上で使用可能なサーバを検索するよう QuickTest に指示します。

---

**ヒント:** ライセンス・ウィザードを使用してコンカレント・ライセンスを有効化すると, LSHOST ユーザ変数が, 指定したコンカレント・ライセンス・サーバに自動的に定義されます。コンカレント・ライセンス・サーバを変更するには, ライセンス・ウィザードを実行するか, あるいは LSHOST または LSFORCEHOST ユーザ変数を設定します。詳細については, 82 ページ「LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定」を参照してください。

---

- 4 [接続をチェック] をクリックします。QuickTest からコンカレント・ライセンス・サーバに接続できた場合は、成功メッセージが表示されます。



---

**注：**コンカレント・ライセンス・サーバに接続できなかった場合は、[コンカレントライセンスサーバ] 画面を通じてそのことが通知されます。

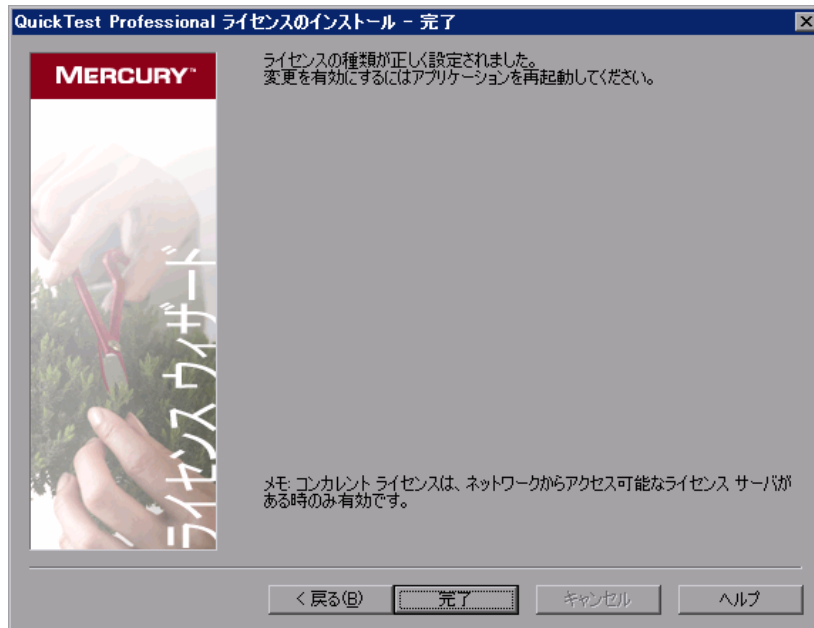
---

**ヒント：**現在は使用できないものの、後で利用できるようになるコンカレント・ライセンス・サーバの名前を指定する場合は、そのコンカレント・ライセンス・サーバの名前をエディット・ボックスに入力できます。[コンカレントライセンスサーバ] 画面には、指定したサーバに接続できないことが通知されますが、次回 QuickTest を開いたときに、QuickTest は指定したサーバの検索を試みます。

---



- 5 [次へ] をクリックします。コンカレント・ライセンスの有効化が正常に行われたことが通知されます。



- 6 [完了] をクリックして、ウィザードを終了します。QuickTest Professional が開いている場合、コンカレント・ライセンス・サーバを使用するためには QuickTest Professional をいったん終了して再度開始する必要があります。

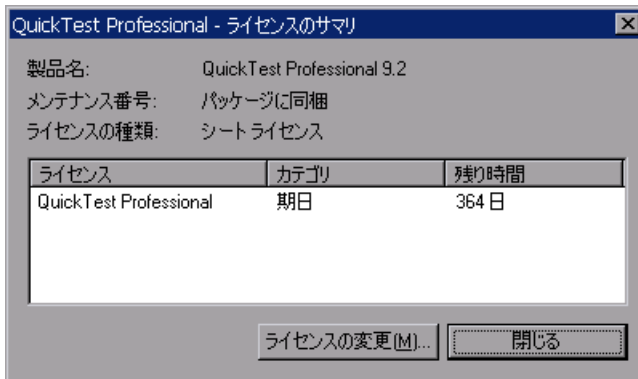
## ライセンス情報の変更

QuickTest Professional のインストール後は、いつでもライセンス・キーを変更したり、ライセンスの種類を変更したりできます。新しいシート・ライセンスの申請は、MIJ ライセンス・センターの Web サイトで行えます。ライセンス申請用の Web サイトは、<http://www.mercury.com/jp/services/license-req/> です。

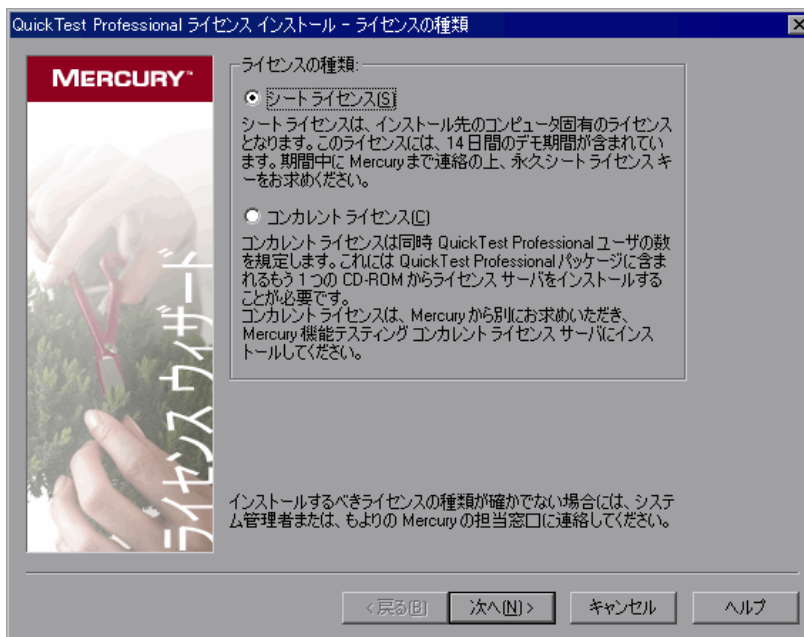
注：インストールされている QuickTest のライセンスの種類をシートからコンカレントへ、およびその逆へ変更するには、管理者権限でログインする必要があります。

ライセンス情報を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 QuickTest Professional を開きます。
- 2 [ヘルプ] > [QuickTest Professional のバージョン情報] をクリックします。  
[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [ライセンス] をクリックします。[ライセンスのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。



4 [ライセンスの変更] をクリックします。[ライセンスの種類] 画面が開きます。



- ▶ ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更するには、[シートライセンス] を選択し、[次へ] をクリックします。確認ボックスが開きます。
  - すでに有効なシート・ライセンス・キーがインストールされている場合は、[いいえ] をクリックして、選択したライセンスの種類を保存します。
  - コミュータ・ライセンスをチェック・アウトしていて、それを今すぐに使用したい場合は、[いいえ] をクリックします。
  - シート・ライセンス・キーがインストールされていない場合は、[はい] をクリックします。

[ようこそ] 画面が開きます。69 ページ「シート・ライセンス・キーのインストール」の手順 4～7 に従います。

- ▶ ライセンスの種類をシートからコンカレントに変更するには、[**コンカレントライセンス**]を選択し、[**次へ**]をクリックします。75 ページ「コンカレント・ライセンスの使用」の手順 2～6 に従います。

---

**注：**コンカレント・ライセンスを使うには、コンカレント・ライセンス・サーバがネットワーク上にインストールされていてネットワークからアクセスでき、利用可能なコンカレント・ライセンスがある必要があります。コンカレント・ライセンス・サーバのインストールの詳細については、『**Mercury Functional Testing Concurrent License Server Installation Guide**』（英語版）を参照してください。

---

- 5 [閉じる] をクリックして [QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 6 QuickTest Professional を再起動し、変更を適用します。

## LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定

ライセンス・ウィザードを使用して QuickTest の接続先となるコンカレント・ライセンス・サーバを指定する以外に、Windows の環境変数を使用してコンカレント・ライセンス・サーバを指定することもできます。たとえば、LSHOST 変数を使用して、QuickTest クライアントの接続先にしたいコンカレント・ライセンス・サーバを設定できます。指定したコンカレント・サーバがローカル・サブネットに見つからない場合は、ネットワーク全体が検索されます。あるいは、LSFORCEHOST 変数を使用して、QuickTest を特定のコンカレント・ライセンス・サーバに限定することもできます。

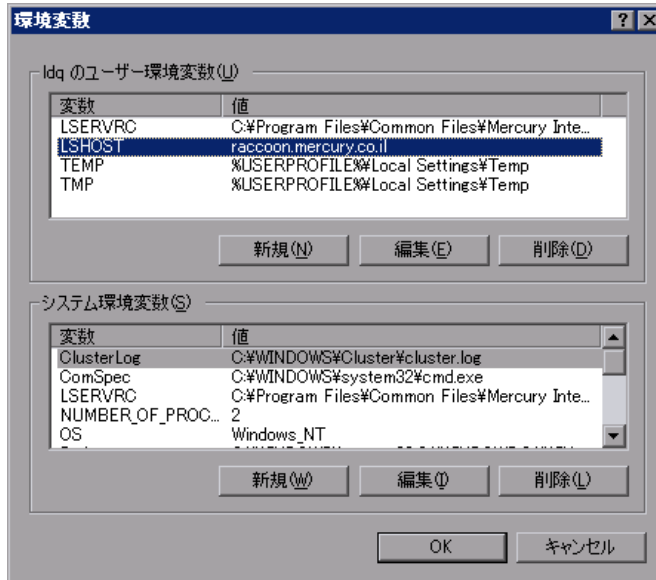
---

**注：**ライセンス・ウィザードを使用してコンカレント・ライセンスを有効化した場合は、LSHOST ユーザ変数が、指定したコンカレント・ライセンス・サーバにすでに定義されています。

---

LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [環境変数] ダイアログ・ボックスを開きます（[スタート] > [設定] > [コントロール パネル] を選択し、[システム] をダブルクリックします）。[システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスで [詳細設定] タブをクリックします。続いて [環境変数] ボタンをクリックします。[環境変数] ダイアログ・ボックスが開きます。



注：すでに LSHOST システム変数または LSFORCEHOST システム変数を使用してコンカレント・ライセンス・サーバが定義されている場合は、ユーザ変数を使用して定義する必要はありません。

- 2 [<ユーザー名>のユーザー環境変数] リストの下にある [新規] をクリックします。[新しいユーザー変数] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [変数名] ボックスに、LSHOST または LSFORCEHOST と入力します。

- 4 **[変数値]** ボックスに、コンカレント・ライセンス・サーバの正式名称を入力します。または、ホスト・コンピュータの IP アドレスを入力しても構いません。

---

**注：**

LSHOST および LSHOSTFORCE 環境変数の値は 64 文字に制限されています。

ホスト名が複数ある（たとえば 1 つのネットワーク上で複数の Mercury Functional Testing Concurrent License Server を運用している）場合には、セミコロン (;) を使って **[変数値]** ボックスの中のホスト名または IP アドレスの間を区切ります。

---

- 5 **[OK]** をクリックして、**[新しいユーザー変数]** ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 6 **[OK]** をクリックして **[環境変数]** ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 7 **[OK]** をクリックして **[システムのプロパティ]** ダイアログ・ボックスを閉じます。

## コンピュータ・ライセンスの使用

コンカレント・ライセンスで QuickTest を使用しているものの、出張などで自分のコンピュータをネットワークに接続できない場合は、コンピュータ・ライセンスをインストールできます。コンピュータ・ライセンスはコンカレント・ライセンスを所有している会社でのみ使用できます（シート・ライセンスでは使用できません）。

たとえば、出先からラップトップ・コンピュータで QuickTest を使用したいとします。出先で使えるように、QuickTest ライセンスをコンカレント・ライセンス・サーバからチェック・アウトし、出先から戻ったときにライセンスをチェック・インして戻すことができます。コンピュータ・ライセンスは、必要に応じて最大で 30 日間有効です。

---

**ヒント：**コンカレント・ライセンスを取得済みでコンカレント・ライセンス・サーバから遠くにいる場合、ネットワークの混雑時にコンピュータ・ライセンスも使用することができます。

---

詳細については、後述の「コンピュータ・ライセンスのチェック・アウト」および 88 ページ「コンピュータ・ライセンスのチェック・イン」を参照してください。

---

**注：**コンピュータ・ライセンスをインストールするには、ライセンスを使用するコンピュータの管理者権限が必要です。

---

さらに、ネットワークとの接続を切る（外出する）前にライセンスをチェック・アウトできなかった場合や、チェック・アウトしたライセンスの有効期限が出先で切れてしまった場合には、ローカル・ネットワーク・ユーザに依頼してコンピュータ・ライセンスをチェック・アウトし、出先に送ってもらうこともできます。詳細については、89 ページ「リモートでのコンピュータ・ライセンスの取得」を参照してください。

---

**注：**コンピュータ・ライセンスは、Mercury Functional Testing Concurrent License Server バージョン 7.6 以降でサポートされています。Mercury Functional Testing Concurrent License Server バージョン 7.6 以降にアップグレードした場合は、コンピュータ・ライセンス機能を有効にするために新しいサーバ・ライセンス・キーを申請する必要があります。詳細については、Mercury のカスタマー・サポートまたは最寄りの代理店にお問い合わせください。

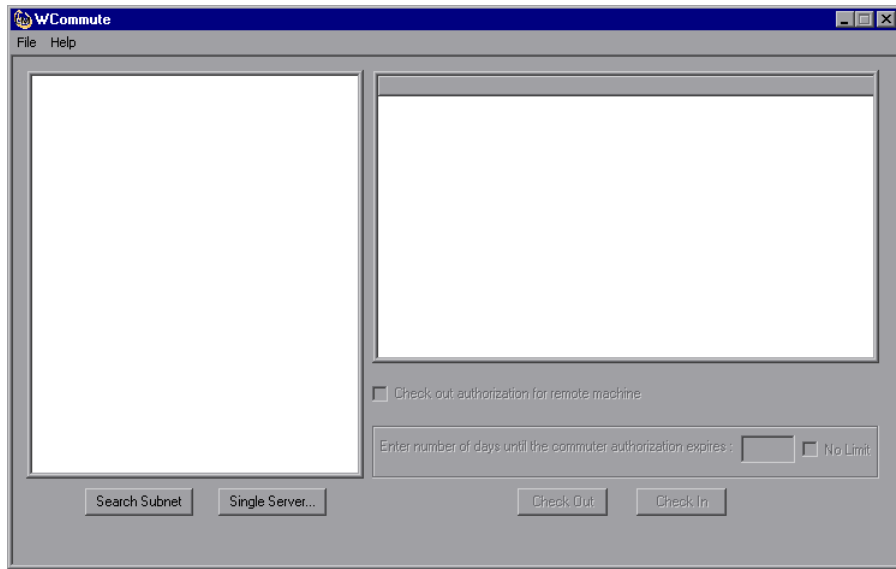
---

## コンピュータ・ライセンスのチェック・アウト

コンピュータ・ライセンスをチェック・アウトする前に、コンピュータ・ライセンスをインストールするコンピュータ（ラップトップなど）に QuickTest がインストール済みであること、そのコンピュータがネットワークに接続されていること、および、利用可能な QuickTest ライセンスを提供しているコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできることを、確認します。ライセンスのチェック・アウト後に、ネットワークからコンピュータを切断できます。

コンピュータ・ライセンスをチェック・アウトするには、次の手順を実行します。

- 1 < QuickTest インストール・フォルダ > %bin にある WCommute.exe ファイルを実行します。[WCommute] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 サブネット内にあるすべてのコンカレント・ライセンス・サーバ上の利用可能なコンピュータ・ライセンスを確認するには、[**Search Subnet**] をクリックします。特定のコンカレント・ライセンス・サーバを指定したい場合や、サブネット外のコンカレント・ライセンス・サーバを選択したい場合は、[**Single Server**] をクリックします。
  - ▶ [**Search Subnet**] をクリックすると、WCommute ユーティリティは、コンピュータ・ライセンスをサポートしているコンカレント・ライセンス・サーバをサブネットの中で探し、それらを [WCommute] ダイアログ・ボックスに表示します。この処理には数分かかる場合があります。



- ▶ **[Single Server]** をクリックすると、コンカレント・ライセンス・サーバを指定するためのダイアログ・ボックスが開きます。コンカレント・ライセンス・サーバ・コンピュータのホスト名、IP アドレス、または IPX アドレスを入力し、**[OK]** をクリックします。指定したコンカレント・ライセンス・サーバが検索され、**[WCommute]** ダイアログ・ボックスに表示されます。

コンカレント・ライセンス・サーバごとに、使用可能なコンピュータ・ライセンスのリストが表示されます。コンピュータ・ライセンスの横の赤いチェック・マークは、使用しているコンピュータに対してそのライセンスがすでにチェック・アウトされていることを表しています。同一のアプリケーションの複数のライセンスを同じコンピュータでチェック・アウトすることはできません。ライセンスの詳細を表示するには、ダイアログ・ボックスの右の表示枠にあるライセンスをクリックします。

- 3 チェック・アウトするライセンスを選択します。
- 4 **[Enter number of days until the commuter authorization expires]** ボックスで、ライセンスをチェック・アウトする最大日数を指定します（最大で 30 日まで）。

---

**注：**ライセンスをチェック・アウトすると、ほかのユーザが使用できるライセンスの数が減ります。そのため、最低限の日数を指定するようにします。

---

- 5 **[Check Out]** をクリックします。選択したライセンスが、使用しているコンピュータにローカルに保存されます。
- 6 チェック・アウトした新しいライセンスを使用するには、QuickTest を開き、ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更します。コンピュータ・ライセンスを使用するには、ライセンスの種類を変更後に表示される確認メッセージで **[No]** をクリックします。詳細については、80 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

## コンピュータ・ライセンスのチェック・イン

コンピュータ・ライセンスを使い終わったら、使用しているコンピュータから、チェック・アウトしたコンカレント・ライセンス・サーバにライセンスをチェック・インする必要があります。これによって、ほかのユーザがライセンスを使用できるようになります。

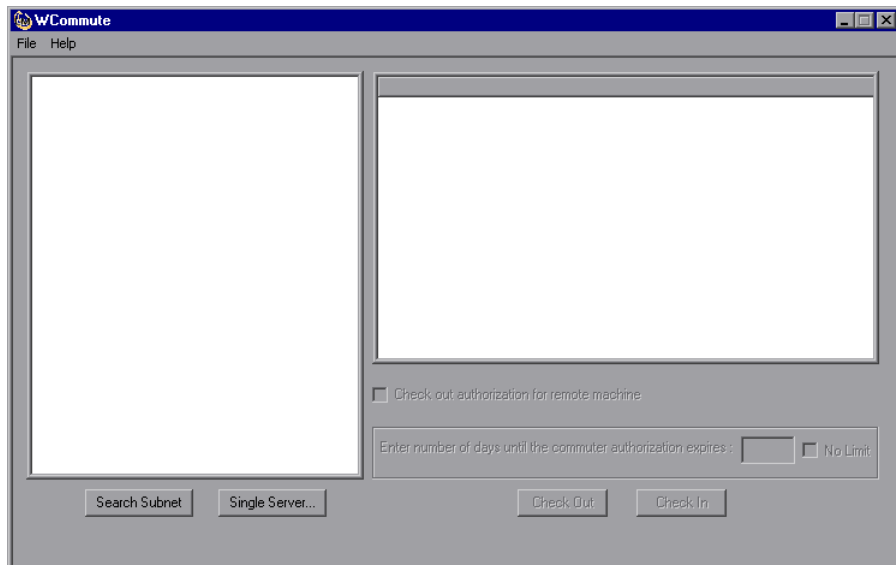
---

**注：**ライセンスが期限切れになっている場合、チェック・インする必要はありません。期限切れになったライセンスは使用できなくなります。使用しているコンピュータがコンカレント・ライセンス・サーバ・ネットワークに接続していなくても、ライセンスは自動的にコンカレント・ライセンス・サーバに戻されます。

---

コンピュータ・ライセンスをチェック・インするには、次の手順を実行します。

- 1 < QuickTest インストール・フォルダ > %bin にある **WCommute.exe** ファイルを実行します。[WCommute] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 86 ページの「コンピュータ・ライセンスのチェック・アウト」の手順2に従って、チェック・インするコンピュータ・ライセンスに対応するコンカレント・ライセンス・サーバを検索します。ライセンスは、チェック・アウトしたのと同じコンカレント・ライセンス・サーバにチェック・インする必要があります。
- 3 チェック・アウトしているライセンスを選択します。

---

**ヒント：**チェック・アウトしているライセンスは、赤いチェック・マークで示されています。

---

- 4 **[Check In]** をクリックします。ライセンスがコンカレント・ライセンス・サーバに戻され、他のユーザが使用できるようになります。

---

**注：**QuickTest を再び使用するには、使用に先立ってライセンスの種類をシートからコンカレントに変更する必要があります。詳細については、80 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

---

## リモートでのコンピュータ・ライセンスの取得

ローカル・ネットワークのユーザに QuickTest コンピュータ・ライセンスをローカルにチェック・アウトしてもらい、それを送信してもらってリモート・コンピュータにインストールすることができます。この機能は、現在コンカレント・ライセンス・サーバ・ネットワークに接続していない場合に便利です。たとえば、長期出張でオフィスを空けるものの、QuickTest を使用できる必要があることが考えられます。

**コンピュータ・ライセンスをリモートで取得するには、次の手順を実行します。**

- 1 WRCcommute ユーティリティを実行し、使用しているコンピュータのコンピュータ・ロッキング・コードを生成します。そして、そのコンピュータ・ロッキング・コードを、コンカレント・ライセンス・サーバにアクセス可能なローカル・ユーザに送信します。詳細については、90 ページ「手順1：リモート・コンピュータのロッキング・コードの生成」を参照してください。

- 2 ローカル・ユーザに依頼して、生成したコンピュータ・ロッキング・コードを入力して WRCommute ユーティリティを実行し、リモート・コンピュータ・ライセンスをチェック・アウトして、送信してもらいます。詳細については、92 ページ「手順2：リモート・コンピュータのためのコンピュータ・ライセンスのチェック・アウト」を参照してください。
- 3 WRCommute ユーティリティを実行し、リモート・コンピュータ・ライセンスをコンピュータにインストールします。詳細については、95 ページ「手順3：リモート・コンピュータでのコンピュータ・ライセンスのインストール」を参照してください。
- 4 QuickTest を開き、ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更します。コンピュータ・ライセンスを使用するには、ライセンスの種類を変更後に表示される確認メッセージで **[No]** をクリックします。詳細については、80 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

#### 手順1：リモート・コンピュータのロッキング・コードの生成

コンピュータ・ライセンスをリモートで取得する最初の手順は、使用しているコンピュータで WRCommute ユーティリティを使用してロッキング・コードを生成し、コンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできるネットワーク・ユーザに電子メールでそのコードを転送することです。

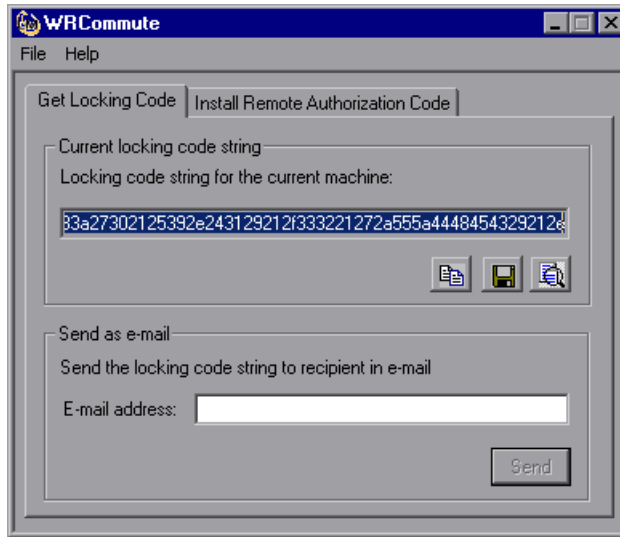
---

**注：**コンピュータ・ライセンスのロックに使用するリモート・コンピュータ・ロッキング・コードは、ECHOID ユーティリティで表示されるロッキング・コードと同じではありません。コンピュータ・ライセンスのロッキング・コードを取得するには、WRCommute ユーティリティを使用する必要があります。

---

リモート・コンピュータでロッキング・コードを生成するには、次の手順を実行します。

- 1 < QuickTest インストール・フォルダ > %bin にある **WRCommute.exe** ファイルを実行します。[WRCommute] ダイアログ・ボックスが開きます。



[**Locking code string for the current machine**] ボックスには、QuickTest ライセンスが含まれているコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできるネットワーク・ユーザに電子メールで送信する必要があるロッキング・コードが示されます。

- 2 次に示すいずれかの方法で、ローカル・ネットワーク・ユーザにロッキング・コードを送信します。



- ▶ ロッキング・コード文字列を範囲選択し、[**Copy to clipboard**] ボタンをクリックして、Windows クリップボードに文字列をコピーします。次に電子メール・プログラムを開き、新しい電子メール・メッセージに文字列を貼り付けて、ローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。



- ▶ [**Save lock code string file**] ボタンをクリックし、ロッキング・コードをファイルに保存します。ファイルの名前と場所を指定し、新しい電子メール・メッセージにそのファイルを添付して、ローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。



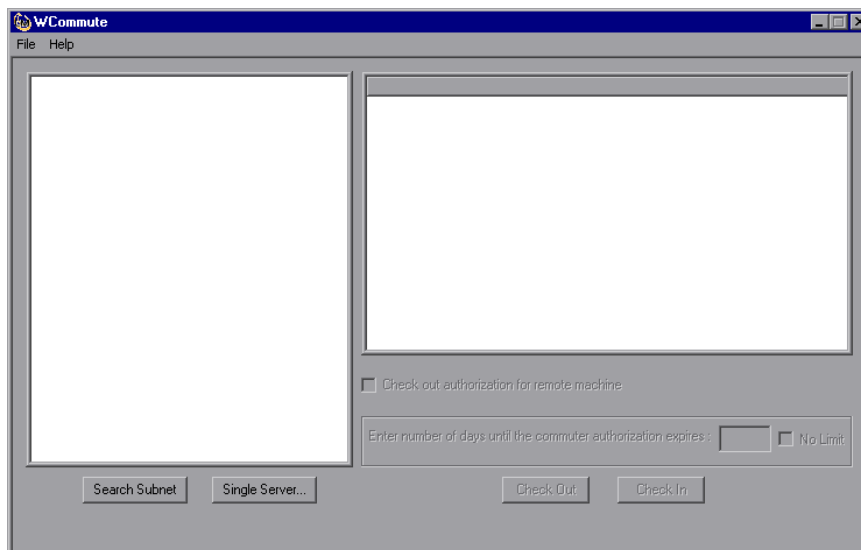
- ▶ **[Display locking code string]** ボタンをクリックし、ロッキング・コード全体を別のダイアログ・ボックスに表示します。そしてロッキング・コード文字列を範囲選択して右クリックし **[コピー]** を選択して、Windows クリップボードにコピーします。次に電子メール・プログラムを開き、新しい電子メール・メッセージに文字列を貼り付けて、ローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。
- ▶ **[E-mail address]** ボックスにローカル・ネットワーク・ユーザの電子メール・アドレスを入力し、**[Send]** をクリックします。このオプションは、電子メール・クライアントとして Microsoft Outlook Express が設定されている場合にのみサポートされます。

### 手順 2：リモート・コンピュータのためのコミュニタ・ライセンスのチェック・アウト

ロッキング・コードを受信したローカル・ネットワーク・ユーザは、ライセンスをチェック・アウトし、電子メールでリモート・ユーザに転送できます。そのためには、ユーザは自分のコンピュータに QuickTest をインストールしておく必要があります。また、利用可能な QuickTest ライセンスを提供しているコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできる必要もあります。

リモート・コンピュータ用のコミュニタ・ライセンスをチェック・アウトするには、次の手順を実行します。

- 1 < QuickTest インストール・フォルダ > %bin にある **WCommute.exe** ファイルを実行します。[WCommute] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 86 ページ「コミュニタ・ライセンスのチェック・アウト」の手順 2 に従って、リモート・コミュニタ・ライセンスをチェック・アウトするコンカレント・ライセンス・サーバを検索します。

コンカレント・ライセンス・サーバごとに、チェック・アウト可能なコミュニタ・ライセンスのリストが表示されます。

- 3 チェック・アウトするライセンスを選択します。
- 4 [**Check out authorization for remote machine**] チェック・ボックスを選択します。

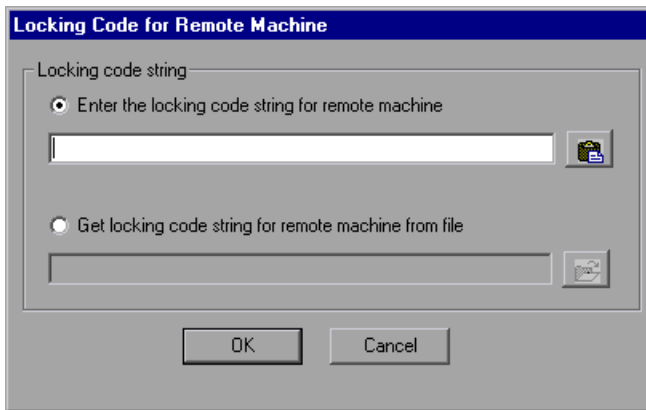
- 5 **[Enter the number of days until the authorization expires]** ボックスで、ライセンスをチェック・アウトする最大日数を指定します（最大で30日まで）。

---

**注：**リモート・マシンのライセンスをチェック・アウトすると、チェック・インできなくなり、指定した日数だけ使用中の状態となります（他のユーザが利用できません）。そのため、必要な最低限の日数を指定するようにします。

---

- 6 **[Check Out]** をクリックします。**[Locking Code for Remote Machine]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 7 次に示すいずれかの方法で、リモート・ユーザからの電子メールで受け取ったロッキング・コードを入力します。



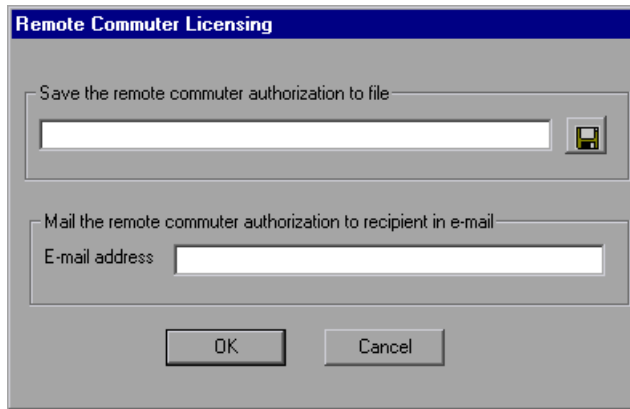
- ▶ ロッキング・コードが、受け取った電子メールの本文に記載されていた場合は、そのロッキング・コードを Windows クリップボードにコピーします。**[Locking Code for Remote Machine]** ダイアログ・ボックスで、**[Enter the locking code string for remote machine]** を選択し、**[Paste from clipboard]** ボタンをクリックします。



- ▶ ロッキング・コードが電子メールの添付ファイルとして送信されてきた場合は、その添付ファイルを保存し、**[Get locking code string for remote machine from file]** を選択します。**[Load]** ボタンをクリックします。ロッキング・コードが記載されたファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。



- 8 **[OK]** をクリックします。**[Remote Commuter Licensing]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 9 次のいずれかの方法で、リモート・ユーザにコンピュータ・ライセンスを送信します。



- ▶ **[Save]** ボタンをクリックし、ロッキング・コードをファイルに保存します。ファイルの名前と場所を指定し、**[Save]** をクリックして、**[OK]** をクリックします。新しい電子メール・メッセージにファイルを添付し、リモート・ユーザに送信します。
- ▶ **[E-mail address]** ボックスに、リモート・ユーザの電子メール・アドレスを入力します。**[Send]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。このオプションは、電子メール・クライアントとして Microsoft Outlook Express が設定されている場合にのみサポートされます。

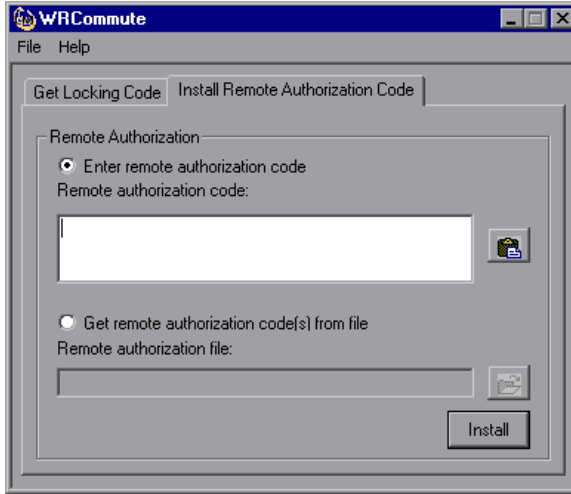
### 手順 3：リモート・コンピュータでのコンピュータ・ライセンスのインストール

コンピュータ・ライセンスをリモートで取得する最後の手順は、ネットワーク・ユーザによって送信されたライセンスをコンピュータにインストールすることです。

リモート・コンピュータにコンピュータ・ライセンスをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 コンピュータに管理者権限でログインしていることを確認します。
- 2 < QuickTest インストール・フォルダ > %bin にある **WRCommute.exe** ファイルを実行します。**[WRCommute]** ダイアログ・ボックスが開きます。

3 [Install Remote Authorization Code] タブをクリックします。



4 ネットワーク・ユーザが電子メールで送ってきたコミュニタ・ライセンスを次のようにして入力します。



- ▶ コミュニタ・ライセンスが、受け取った電子メールの本文に記載されていた場合は、そのコミュニタ・ライセンスを Windows クリップボードにコピーします。[WRCommute] ダイアログ・ボックスの [Install Remote Authorization Code] タブで、[Enter remote authorization code] を選択し、[Paste from clipboard] ボタンをクリックします。



- ▶ コミュニタ・ライセンスが電子メールの添付ファイルとして送信されてきた場合は、その添付ファイルを保存し、[Get remote authorization code(s) from file] を選択します。[Load] ボタンをクリックします。ロックンク・コードが記載されたファイルを選択し、[開く] をクリックします。

5 [Install] をクリックします。新しいライセンス・コードがコンピュータにインストールされます。

#### 手順4：リモート・コンピュータでのライセンスの種類の変更

QuickTest を開き、ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更します。コンピュータ・ライセンスを使用するには、ライセンスの種類を変更後に表示される確認メッセージで **[No]** をクリックします。詳細については、80 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

---

**注：** リモート・コンピュータ・ライセンスは使い終わってもコンカレント・ライセンス・サーバにチェック・インできません。そのままリモート・コンピュータ上で期限切れになります。オフィスに戻ってネットワークに再接続したら、ライセンスの種類をシートからコンカレントに変更する必要があります。詳細については、80 ページ「ライセンス情報の変更」を参照してください。

---

## QuickTest ライセンスの検証

ライセンス検証ユーティリティは、QuickTest Professional のライセンス文字列をデコードして検証します。これによって、トラブルシューティングを目的として、ライセンス情報およびライセンス検証情報の表示とコピーを行えるようになります。

ライセンス検証ユーティリティにより次の操作が行われます。

- ▶ ライセンス文字列をデコードし、ライセンスに関する重要な情報を取得します。詳細については、99 ページ「ライセンス情報」を参照してください。
- ▶ あらかじめ定義されているチェック項目に基づいてライセンスを検証します。詳細については、100 ページ「検証のチェック」を参照してください。

必要な場合は、デコードおよび検証の結果をクリップボードにコピーできます。詳細については、100 ページ「ライセンス検証結果のクリップボードへのコピー」を参照してください。

ライセンスのデコードおよび検証を行うには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] > [プログラム] > [QuickTest Professional] > [Tools] > [License Validation Utility] を選択します。



- 2 [ライセンス キー] ボックスで、デコードおよび検証するライセンス・コードを入力します。QuickTest コンピュータ上にインストール済みのライセンス・コードは、**lserverc** ファイルにあります。このファイルは通常、C:\Program Files\Common Files\Mercury Interactive\License Manager にあります。

---

ヒント：ライセンス・コードの末尾に # 文字が挿入されていることを確認してください。欠落している場合は、[ライセンス検証結果] 領域にエラーがレポートされます。# はライセンス・コードの末尾を示すため、# 文字の後のすべての文字列はライセンス検証ユーティリティで無視されます。

---

- 3 [検証] をクリックします。ライセンス文字列がデコードされます。

ライセンス情報が [ライセンス情報] 領域に表示されます。詳細については、99 ページ「ライセンス情報」を参照してください。

検証の結果は、[ライセンス検証結果] 領域に表示されます。詳細については、100 ページ「検証のチェック」を参照してください。

- 4 必要な場合、[コピー] をクリックしてクリップボードに情報をコピーします。コピーされた情報には、現在のマシンのロッキング・コード、デコードされたライセンス文字列、およびデコードと検証の結果が含まれています。詳細については、100 ページ「ライセンス検証結果のクリップボードへのコピー」を参照してください。
- 5 [閉じる] をクリックしてユーティリティを閉じます。

## ライセンス情報

デコード操作の結果には、ライセンスについての次の情報が含まれます。

---

注：この操作で提供される情報の一部は、Mercury カスタマー・サポートのみ対象としているため、ここでは説明しません。

---

- ▶ **機能名**：ライセンスの作成時に指定した QuickTest 機能名です。
- ▶ **機能のバージョン**：ライセンスの作成時に指定したライセンスのバージョンです。これは QuickTest Professional のバージョン番号ではありません。
- ▶ **シート/コンカレント**：ライセンスの種類です。インストールされているコンピュータに固有のシート・ライセンス、または、複数の QuickTest ユーザによって使用される現在のライセンス・サーバを参照するコンカレント・ライセンスです。
- ▶ **試用/通常**：ライセンスの種類です。**試用**ライセンス（一定期間内のみ使用できる評価版ライセンス）、または**通常**ライセンスです。
- ▶ **試用日数**：試用ライセンスにのみ適用されます。試用期間終了までの日数が指定されます。
- ▶ **ロッキング・コード**：ライセンスの作成時に指定したロッキング・コードです。このコードにより、QuickTest がインストールされているコンピュータが一意に識別されます。

- ▶ **クロック不正変更**：QuickTest がインストールされているコンピュータで不正に日付が変更された形跡があるかないかに基づいて、ライセンス発行の可否を示します。
- ▶ **コンピュータ・ライセンス**：コンピュータ・ライセンスがサポートされているかどうかを示します。コンピュータ・ライセンスにより、QuickTest コンカレント・ライセンス・サーバへ接続中に QuickTest Professional が使用できるようになります。コンピュータ・ライセンスは、コンカレント・ライセンスと共にしか使用できません。詳細については、84 ページ「コンピュータ・ライセンスの使用」を参照してください。

### 検証のチェック

ライセンス検証ユーティリティによって次の検証チェックが行われます。

- 1 QuickTest 機能名は既存の機能と一致するか。
- 2 ライセンスのバージョンは既存のバージョンのいずれかと一致するか。
- 3 ロッキング・コードは、QuickTest がインストールされているマシンのロッキング・コードと一致するか。
- 4 ライセンス文字列で指定されている試用期間は終了していないか。
- 5 ライセンスはコンカレント・ライセンスの場合、コンピュータ・ライセンスがサポートされているか。

### ライセンス検証結果のクリップボードへのコピー

場合によっては、このユーティリティが提供する情報のコピーが必要になります。たとえば、Mercury カスタマー・サポートにこの情報を転送しなければならないことがあります。

検証操作の完了後、[コピー] ボタンをクリックして、クリップボードに情報をコピーします。そして、必要に応じて情報を貼り付けます。

# 第4章

---

## QuickTest Professional の保守とアンインストール

QuickTest Professional では、個々の機能をインストールおよびアンインストールできます。また、コア・アドインや外部アドインを含むすべての QuickTest Professional のソフトウェアとファイルをアンインストールすることも可能です。破損した QuickTest Professional のインストールを修復することもできます。

本章の内容	ページ
QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール	102
QuickTest Professional のインストールの修正	103
QuickTest Professional とインストールされたアドインのアンインストール	104

## QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール

QuickTest Professional の CD-ROM を使用して、特定の QuickTest Professional の機能をインストールまたはアンインストールできます。たとえば、QuickTest Professional と一緒に提供されるコア・アドインまたはサンプル・アプリケーションをインストールあるいはアンインストールできます。

機能をインストールまたはアンインストールする手順は、カスタム・インストールの実行手順と似ています。次の手順で説明する画面の詳細については、22 ページ「QuickTest Professional のインストール」を参照してください。

---

**注：**QuickTest Professional の機能のアンインストールをする前に、50 MB 以上のハードディスクの空き容量があることを確認してください。

---

**QuickTest Professional の機能をインストールまたはアンインストールするには、次の手順を実行します。**

- 1 CD-ROM ドライブに QuickTest Professional の CD-ROM を挿入します。お使いのコンピュータの CD-ROM ドライブからインストールする場合は、[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、CD-ROM のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

---

**注：**最初のインストールで使ったのと同じ QuickTest Professional のバージョンを使用しなければなりません。

---

- 2 [QuickTest Professional のセットアップ] をクリックします。[セットアップのメンテナンス] 画面が開きます。
- 3 [変更] を選択し、[次へ] をクリックします。



- 4 [機能の選択] 画面で、インストールする機能のチェック・ボックスを選択し、アンインストールする機能のチェック・ボックスをクリアします。[スタート] をクリックします。[セットアップ ステータス] 画面に、アプリケーションの変更の進行状況が表示されます。
- 5 完了画面で、コンピュータを再起動するよう求められます。[終了] をクリックします。

---

**注：**できるだけ早くコンピュータを再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると、QuickTest に予期しない動きが生じる可能性があります。

---

## QuickTest Professional のインストールの修正

QuickTest Professional の CD-ROM を使用して、前回の QuickTest Professional のインストールから無くなったり損傷したりしているファイルを置き換えることによって、既存の QuickTest Professional のインストールを修復できます。

**QuickTest Professional のインストールを修正するには、次の手順を実行します。**

- 1 CD-ROM ドライブに QuickTest Professional の CD-ROM を挿入します。お使いのコンピュータの CD-ROM ドライブからインストールする場合は、[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、CD-ROM のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウが開きます。

---

**注：**インストールの修復に QuickTest Professional の CD-ROM を使用するには、最初のインストールで使ったのと同じ CD-ROM を使用しなければなりません。

---

- 2 [QuickTest Professional のセットアップ] をクリックします。[セットアップのメンテナンス] 画面が開きます。

- 3 [修正] を選択し、[次へ] をクリックします。[セットアップ ステータス] 画面に、修復プロセスの進行状況が表示されます。
- 4 完了画面で、コンピュータを再起動するよう求められます。[終了] をクリックします。

---

**注：**できるだけ早くコンピュータを再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると、QuickTest に予期しない動きが生じる可能性があります。

---

## QuickTest Professional とインストールされたアドインのアンインストール

インストールされた QuickTest Professional には、コンピュータから QuickTest Professional の機能と（組み込みおよび外部）アドインをアンインストールし、[スタート] メニューから QuickTest Professional のショートカットを削除するアンインストール・プログラムが含まれています。

QuickTest のアンインストールをする前に、50 MB 以上のハードディスクの空き容量があることを確認してください。

---

**注：**

102 ページ「QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール」で説明するように、特定の QuickTest Professional の機能をアンインストールできます。

Windows のコントロール・パネルの [**プログラムの追加と削除**] オプションを使って、特定の QuickTest Professional の外部アドインをアンインストールできます。詳細については、関連するアドインのマニュアルを参照してください。

QuickTest Professional 8.0.x 以降に 6.5.x 外部アドインを直接インストールし、QuickTest Professional 9.2 で作業できるようにそれらをバージョン 8.x にアップグレードした場合、アンインストール・プログラムはそれらのアドインをアンインストールしません。この場合、QuickTest Professional を手動でアンインストール後、QuickTest Professional をインストールしたフォルダに残っているファイルを削除します。

---

[**QuickTest Professional のアンインストール**] メニュー・コマンドを使用しても、QuickTest Professional CD-ROM を使用しても QuickTest Professional をアンインストールできます。

[**QuickTest Professional のアンインストール**] メニュー・コマンドを使って QuickTest Professional をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 [**スタート**] メニューから [**QuickTest Professional**] プログラム・グループを開き、[**QuickTest Professional のアンインストール**] を選択します。
- 2 QuickTest Professional をアンインストールすることを確認するメッセージが表示されます。[**はい**] をクリックして、QuickTest Professional をアンインストールします。アンインストールしない場合は、[**いいえ**] をクリックして、コンピュータに QuickTest Professional がインストールされているままにします。

アンインストール・プログラムにより、コンピュータからすべての QuickTest Professional の（組み込みおよび外部のアドインを含む）機能が削除されます。

- 3 アンインストール・プロセスが完了したら、コンピュータの再起動を選択し、**[終了]** をクリックします。

---

**注：**開いているファイルはすべて保存できますが、コンピュータをできるだけ早く再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると、システムに予期しない問題が起こる可能性があります。

---

**QuickTest Professional の CD-ROM を使って QuickTest Professional をアンインストールするには、次の手順を実行します。**

- 1 CD-ROM ドライブに QuickTest Professional の CD-ROM を挿入します。お使いのコンピュータの CD-ROM ドライブからインストールする場合は、**[QuickTest Professional セットアップ]** ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、CD-ROM のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。**[QuickTest Professional セットアップ]** ウィンドウが開きます。

---

**注：**最初のインストールで使ったのと同じ CD-ROM を使用しなければなりません。

---

- 2 **[QuickTest Professional のセットアップ]** をクリックします。InstallShield Wizard の **[セットアップのメンテナンス]** 画面が開きます。
- 3 **[削除]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
- 4 QuickTest Professional をアンインストールすることを確認するメッセージが表示されます。**[OK]** をクリックすると、QuickTest Professional をアンインストールします。**[キャンセル]** をクリックすると、コンピュータに QuickTest Professional がインストールされている状態のまま、前の画面に戻ります。

アンインストール・プログラムにより、コンピュータからすべての QuickTest Professional の（組み込みおよび外部のアドインを含む）機能が削除されます。

---

**注：** QuickTest Professional のアンインストールは、Microsoft Script Debugger や Microsoft NET Framework など、QuickTest Professional のインストールの一環としてインストールした Mercury 以外のアプリケーションをアンインストールしません。[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] ダイアログ・ボックスからこれらのアプリケーションをアンインストールできます。

---

- 5 アンインストール・プロセスが完了したら、コンピュータの再起動を選択し、[終了] をクリックします。

**注：** 開いているファイルはすべて保存できますが、コンピュータをできるだけ早く再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると、システムに予期しない問題が起こる可能性があります。

---

